**№43　テーマ『本物の条件』**

**講話日2002年8月26日**

**芳村：皆さん、こんにちは。**

**一同：こんにちは。**

**芳村：ようやく暑さのピークも済んで、ちょっとほっとして、涼しかったかなと思ったら、また暑くなってきて、ようやくもう残暑の時期に入りました。皆さん方もどうぞ健康に気を付けて頑張ってください。今日のお話は、ここに書いていただいてありますように、本物の条件という、そういうテーマでお話をさせていただきます。前回は、人間として本物とはなんなのかというですね、そういう本物論というものの基本的な考え方を、お話をしました。本物という、この人間としてのですね、あり方を追求していこうと思ったならば、まずは人間として本物とはなんなんだろうという問いを持っていなければならないと。人間は成長するものだから、答えを持ってしまったのでは、そこで止まってしまう。だから、問いを持ち続けてですね、そして、常にその問いに対して、より素晴らしい答えを出していく。それが、成長のプロセスを意味するわけであります。**

**その意味で、どういう問いを持ったら、人間は成長するのかということを考えなければならない。その一番根本にあるのがですね、人間が存在する限り、永遠になくならない問いというものがあるわけですね。それがこの人間として本物とはなんなのかという問いである。その問いから、さらにどういう問いが出てくるかというと、人間であるとはどうあることなのか。どうなりゃ、人間であると言えるのか。もう１つは、人間になるとはどうなることなのか。どうなりゃ、人間になったと言えるのか。そういうこの人間存在における根源的な問いというものが出てくる。そして、前回は、人間であるとはどうあることかというですね、この存在論的な問いと申しますけど、この人間存在の根源を問うという、この人間であるとはどうあることかという問いに対する答えとしてですね、この人間は不完全性の自覚からにじみ出る謙虚さというものを持っていなければならない。謙虚さのない人間は人間ではない。そんなことを、申し上げたわけですね。どういうふうにしたら、謙虚さができるのか。そういうこのお話をさせてもらいました。**

**ですから、ここのレジュメに書いてある不完全性の自覚からにじみ出る謙虚さというのは、もうすでに前回、話したことであります。ですから、今日はそれは一応、項目として挙がっておりますけど、その話は済んだこととして、その次からですね、お話をさせていただく。その人間、本物としてどういう条件をですね、備えなけりゃならないのかという、この条件、全部で３つあるわけなんですね。その１つの、第１番目の、人間であるとはどうあることかという、この問いから、直接的に答えとして出てくるものが、この不完全性の自覚からにじみ出る謙虚さである。なぜ謙虚さというのは大事なのかといったら、人間は原理的に言って不完全な存在である。不完全であるということを自覚することによって、謙虚さは、直ちにですね、そこから出てくる人間性の本質だと。謙虚な心が人間らしい心というものを意味するものである。謙虚な心を持ってなかったら、人間ではない。これは人間であるがための、人間の印として、謙虚さというものをですね、われわれは持ってなきゃならんというお話をさせてもらいました。**

**だけども、本当に人間が人間性というようにですね、言うことができるものは、必ずしも謙虚さではない。それは謙虚さの裏には、必ず自信というものがですね、この付いていなければならないのであって、人間というのはどんな人間でも、長所、短所、半分ずつある。そして、長所、短所半分ずつ持っておるのが人間なんだから、だから、長所も生かし、短所も生かさなければ、本当の人間ではない。だから、長所を伸ばすことによって、長所を磨いて、他人から一目置かれるような素晴らしい能力をつくって、そして、短所をなくさないで、自分にはこういう短所があるんだということを知っておることによって、人間らしい謙虚な心をつくっていく。そして、長所の部分で他人の役に立って、短所の部分は他人から助けてもらって感謝をする。それが完成された人間の姿だ。感謝といっても、他人から助けてもらうものがなかったら、感謝はできませんからね。だから、他人から助けてもらうものを持っていなければならない。そのために短所が必要だ。短所があるから、人間らしい心ができる。だけども、その短所だけでは人間ではない。長所を伸ばさなければ人間の価値はない。**

**実際問題、職業というのは、この自分の長所の部分で他人の役に立つという、そういうことで職業は成り立っているわけですね。だから、他人から一目置いてもらえないような、そんな半端な能力で他人の役に立とうなんて、おこがましいと。やっぱり、プロというのは、さすがにプロやなとこう、言ってもらえるようなですね、そういう能力を何かしら、仕事において発揮することが条件だ。それがなしには、プロとは言えない。金をもらうからには、金を取るからには、月給をもらうからには、何かしら他人を感心させることができるようなね、そういう能力を自分が持っていなければならない。またそれを自分の能力の中に磨き上げることをね、職場において目標にしなければならない。他人から一目置かれないような、そんな半端な能力で他人の役に立とうなんておこがましいと。さすがに何かしら、さすがにプロやと、こう言ってもらえるようなね、そういう能力で初めて本当に他人に喜んでもらい、他人に満足を与え、他人に感謝してもらえるような、また他人から信頼されるような仕事が初めてできるのである。**

**そういう能力を磨くために、われわれは職場でこの自分を鍛えなければならない。仕事を通して自分を鍛えなければならない。そういうふうにして、この仕事における自信とですね、それから、傲慢な気持ちにならないようなですね、謙虚さをつくっていく。そこで初めて人間として完成される。あんなすごい能力を持ってるのに、なんて謙虚な方なんでしょうというのが、人間、完成された姿ですからね。そういうふうにして、人間性はできてくる。だから、人間性とはなんなのかといったら、謙虚さではない。人間性というのは、傲慢ではないという、この心情である。傲慢になってはならない。すごい能力を持ってるけど、だけど、傲慢になってはならない。それが人間として完成された姿、すなわち人間性の本質である。単に謙虚さというものをですね、この人間性と考えてしまったら、謙虚でありさえすれば人間だと思ってしまったら、それはちょっと、この変なことになってしまって、謙虚、謙虚、謙虚、謙虚って、なんとなく鳥が鳴いてるみたいですからね。**

**力もないのに謙虚にすると、なんとなくこびへつらってるみたいな感じに見えてしまう。自信がない、力のない人間の謙虚さは、残念ながら、こびへつらえに見えてしまう。それは決して人間の誇りではない。謙虚さが人間の誇りになるためには、その反面に、その反面に強さと自信がなければならない。そのためにわれわれは能力を磨いてですね、そして、社会を生き抜く強さと自信というものをつくっていかなければならない。だから、人間が完成された状態というのは、自信と謙虚さが裏と表に付いているというね、そういうふうなこの状況であります。そこから出てくるものが傲慢ではない。傲慢であってはならないという、そういうこの人間としての戒めですね。それが、この本物の人間の第１番目の条件である。そういうふうにですね、考えておいてもらいたいと。**

**結果としてですね、そういうこの傲慢ではないという、そういう心情をつくるために、われわれは不完全性の自覚というものを持っていなければならない。不完全性の自覚というのは、どんなに素晴らしい能力を持っておっても、でも、それでも不完全だというですね、それが人間の自覚である。なんで不完全性の自覚がなかったならば、人間として本物とは言えないのか。それは、不完全性の自覚を持つことができるのは人間だけであるからである。不完全性の自覚というのは、神にも持てない、動物にも持てない、人間にしか持てない。なぜならば、神が自覚を持つならば、完全性の自覚でなければならない。神は人間が持てる不完全性の自覚を俺が持てないはずがあろうかなんていうようなことを考えてたりして、神様が不完全性の自覚なんか持っちゃったりすると、神でなしになっちゃいますからね。それじゃ、神様は神様でなくなっちゃいますから、困っちゃうなっちゅうことになりますから。だから、どんなに神様が頑張っちゃってもですね、不完全性の自覚なんて持てない。**

**動物はどうかといったら、動物は人間と同じように不完全な存在ですけども、だけども、動物は自分が不完全であることを知ることができない。なぜなら、動物は完全なるものを考えることができないから、だから、自分が不完全であるということに気が付かないというか、知ることができない。だから、動物にも不完全性の自覚というのはないんだ。人間だけが、この不完全でありながら、完全なるものを心に置いて思い描くことができる。だから、俺はそんな完全なもんじゃないというね、そういう自覚が生まれてくる。だから、不完全性の自覚は人間しか持てない。だから、人間が本物の人間であろうとするならばですね、この不完全性の自覚なしには、本物とは言えない。そういう意味で、この不完全性の自覚というのは、人間が本物の人間であるがためのですね、根本的なこの意識だというふうにですね、言うことができるわけであります。**

**じゃあ、その不完全性の自覚に基づくですね、謙虚さ、あるいは、傲慢ではないという、そういう心情性を持っておったならば、人間は本物と言っていいのか。ちょっとそれだけでは本物ではない。不完全でいいんだというようなことになったりしてですね、不完全でいいんだっていって、開き直っちゃたりしたら、成長しませんからね。だから、不完全性の自覚というこの意識だけでは、人間は本物とは言えない。じゃあ、何が大事なのかといったら、その次にわれわれが考えなければならないことは、もう１つの問い。すなわち、人間になるとはどうなることなのか。どうなりゃ、人間になったと言えるのか。この問いに対する答えを模索することによって、あと２つのですね、本物の条件というふうに言うことができる、この人間性の内容が見えてくるわけであります。確かに人間は不完全性の自覚を持っていなければならない。だけども、自分が不完全だということを自分が意識することができるのは、自分が完全なるものを思い描くことができるという、完全なるものをイメージすることができるという理性を持っておるからである。理性を持っとるが故に、人間は完全なるものをこの心に置いてイメージすることができる。そのことによって、自分が不完全だということを知ることができるんだ。だから、人間は不完全であると同時にですね、完全なるものを心に思い描いて、そして、完全なるものに近づこう、完璧を目指そうというですね、そういう意欲が出てくるのも、また人間の印である。**

**だけど、絶対、完全にはなれない。絶対には完全にはなれないけども、不完全でありながらも、より完璧を目指し、より完全を目指す。そこにまた、人間の生き方の特徴があるということをですね、忘れてはならない。完全を目指すんだけど、完全にはならない。そういうことをどう言うかというと、これはより以上を目指して生きるというんですね。より以上を目指して生きる。より以上を求めて生きる。これもやっぱり、人間の本物の印である。これはみんなやってます。もっと金が欲しい。もっといい車に乗りたい。もっといい家に住みたい。もっといい服が着たい。もっといい顔になりたい。もっといいスタイルになりたい。みんな、より以上、なんらかの点で求めて生きてるんですよね。それは人間の印だ。動物はそんなことしない。動物はもっといい顔になりたいとかね、もっときれいになりたいとか、もっといい服が着たいとかですね、もっと金が欲しいとか、もっと幸せになりたいとか、そんなことは動物は考えない。だけど、人間はそれを考える。そこにまた人間の特徴がある。それは、より以上を目指して生きるという、そういう生き方だというふうにね、われわれは言うことができるわけであります。**

**そして、このより以上を目指して生きるということが、どうして第２番目のですね、本物の人間の印なのか。それは、このより以上を目指して生きるということもですね、人間にしかできないことであって、神にも動物にもできないんだ。だから、第１番目のですね、この不完全性の自覚というものが、人間にしか持てない自覚であって、神にも動物にも持てない。だから、神にも動物にも持てない、人間にしか持てない、この不完全性の自覚を持たずして、どうして人間として本物と言えるかということをですね、前に申しましたけども、第２番目の条件もそれと同じ、この価値を持ったですね、その本物の内容を示すものであります。すなわち、より以上を目指して生きるのは人間だけであって、神にも動物にも、より以上を求めて生きる、より以上を目指して生きるという言い方はできない。なぜならば、神様は、完全かつ絶対であるというふうにね、まあ、現在の宗教学では考えられておる。神というものは、完全かつ絶対なるものである。だから、完全で絶対という神様にね、より以上を求めて生きろって言ったって、完全で絶対なんだから、より以上なんて、どうすりゃいいのなんていうようなことになってしまうと、神様、困っちゃいますからね。神様は、より以上にはなれない。動物はどうかというと、動物は人間と同じように不完全な存在ですけどもですね、だけども、この動物は完全なるものを心に思い描くことができませんから、完全なるものを求めようというのは、そんな意識は出てくるはずがない。動物もやっぱり、完全なるものを求めて生きるというような生き方はしない。人間だけが、この不完全でありながらも、完全なるもの、完璧なるものを目指して生きるという生き方をすることができるのである。**

**だから、人間が本物の人間であろうとするならば、その生き方をせずして、どうして本物と言えるかというね、そういうこの条件が出てくるわけであります。人間であるならば、誰しもなんらかの点でですね、より以上のものを目指していく。そういうこの成長する生き方をですね、自分に課さなければならない。もう俺はこれでいいんだと思ったら、そこで成長は止まってしまう。成長が止まれば、傲慢さが出てくる。あるいは、頑固になってしまう。自分はこれでいいと思ってしまったら、もう他人から学ぼうとしない。だから、他人と自分と違う考え方と対立をしてしまったりして、相手の要求を受け入れない。柔軟さがなくなってしまう。固まってしまって、成長しないということは、もう死んじゃったんだ。人間は生きてる。生きてるということは、変化することだ。しかも、よりよい方向性に変化することが成長である。だから、生きてる人間であったならば、必然的に何かしら、よりよい方向性に変化するという、そういう生き方をしなければならない。だけども、よく考えれば、みんなやってるんだ。なんらかの点で、もっとうまいものが食いたいとかね、なんらかの点で、より以上を目指して生きると、みんなやってるんだ。それ、人間だから、必然的にそうせざるを得ないんだ。だけど、それを単に気分に任せてね、もっときれいになりたいとか、もっとスタイルよくなりたいとかっていうことを言ってるだけじゃなくって、いろんな面において、自分が仕事の面においても、もっともっと自分を成長させたいというふうなですね、そういうこの生き方をするかどうか。そこにこの人間の社会的存在としての価値が決まってくるわけですね。**

**とにかく第２番目のですね、この人間の本物の条件というのは、より以上を求めて生きるというところにですね、ある。それはなぜかといったら、より以上を求めて生きるという生き方は人間にしかできないんだ。だからこそ、なんらかの点で、より以上を求めて生きるという生き方をすることがですね、人間が本物として生きていくための第２番目の大事な条件である。そのことをですね、ぜひ、この根拠をちゃんとつかみながらですね、わかっておいてもらいたいと思います。そういう、そのより以上を求めて生きるというですね、そういう人間らしい生き方、より以上を目指して生きるという人間らしい生き方、それをしようと思ったら、まず最初にわれわれが考えなきゃならんことはですね、そういうこの、まず、その意志を持たなければならない。より以上を求めて生きるという、その意志をですね、まず、われわれ、持たなければならない。そうしよう、それほど、そのことが大事なんだというですね、そういうこの根拠をちゃんと自分がわかって、そういうより以上を求めて生きるという生き方をしようというですね、そういう意欲をまず持たなければならない。**

**それは、なんなのかといったら、それがまさに自己実現、自分を一個の個性ある存在として、完成させていく道筋に自分が乗ったということである。より以上、求めて生きるということを、生き方をしようとしない人は、自己実現の生き方を忘れてしまってるんだ。自分らしい、本当の自分というものを実現していこう。本当に自分が納得できる人生をつくっていこう。そういう思いを持ってないということですね。もうこれでええんやと。べつにそんな成長せんでもええわと。とにかくは、生きていけりゃええんやって、そういうふうなね、感じで自分を成長させようという自覚を持って生きてない人は、これは人間として本物ではない。結局そういう、この成長意欲のない人というのは、なんとなく周りに悪影響を与えてね、なんかしら、怠け者になってしまうという、そういうこの状況に、みんながだらっとしてしまうというのは、そういう状況に影響を与えてしまったりしますからね。だけども、目を輝かせて、何かしら頑張って、一生懸命に生きてるという姿が、なんとなくみんなを感動させて、そして、俺もという、そういうこのいい影響をね、こう、周りに振りまいていくことができるわけであります。人間は存在するだけでも、周りに何かしら、影響を与えてしまっておる。自分はそれでいいと思っても、それが他人を不幸にする。他人をも堕落させる。そんなことになってしまったら、これはやっぱり、残念というか、情けないですからね。だから、人間は、ただ存在してるだけでも、影響を与えておる、いい影響を与えるようなですね、そういうこの自分でありたい、なければならない。**

**まあ、これはお父さん、お母さんになったら、子どもにいい影響をね、与えるような生き方をしなければならない。当然そのことが出てくるわけであります。まだ結婚してない間は、そんなこと、あんまりわからないかもしれませんけど、やっぱり、いい影響を与えないで、悪い影響を子どもに与えちゃったら、もうとんでもない子どもができてしまったりして、とんでもない子どもができてしまったら、お父さん、お母さんの人生は不幸だ。だから、子どもはいい子になってくれるようにですね、立派な子になってくれるように、いい影響を与えようという、これはもう、お父さん、お母さんが、真剣に子どもを愛するならば、当然、考えなければならない、考えることなんですよね。だから、人間はみんな、なんらかの意味で、いい影響をですね、周りに与えるような、そういう生き方をする必要がある。それは自分の幸せのためだし、自分の成長のためだけど、だけど、またみんなを成長させ、みんなを幸せにするためでもある。それが社会人としてですね、生きていく、社会の中でお互いに影響を与え合いながら生きていく人間としての自覚なんですよね。**

**だから、われわれは、とにかくなんらかの点で、もっと成長したい。何かしたら、より以上、求めていく。もうそういう生き方をしてることが社会的責任なんですね。自分がより以上を求めて生きるということをしていかないと、子どもが駄目になる。ぐうたらなお父さん、お母さんだったら、子どもが駄目になる。子どももその影響を受けてしまったりして、同じように会社の中にそういう、ぐうたらな、どうだってええじゃんというような、そういう人がおったら、みんながその影響を受けてしまって、悪影響をばらまいてしまう。みんなの労働意欲を阻害してしまう。その影響力の怖さというものをね、やっぱり、われわれは社会人であって、大人であるならば、意識していなければならない。ただ、自分が存在するだけでも、周りに何かしら影響を与えてるんだ。だから、いい影響を与えるような自分として生きなければならない。そう思うことが、自分が成長できることであり、また自分が幸せになる原理である。これは、やっぱり、本当に真剣にですね、生き方、本当に自分が幸せとか、成長とかということを本当に望むならばね、誰でも当然、これは考えつく考え、結果として、そういう考えに至る結論であります。**

**より以上を求めて生きるということは、自己実現の人生を歩むことだ。自己実現、自己創造、自己完成というね、そういうこの人生を歩もうと思ったならば、われわれは、より以上を求めて生きるやり方をしなければならないと。そういうこの自己実現の人生というものをですね、歩んでいくために、われわれが、まず自分に必要とするものがですね、何を理想とし、何を目的とし、何を志して生きていくのかという、生きる目標づくりですね。理想のつくり方、自分が幸せになれる目的のつくり方、あるいは、志の立て方というね、この方法論をわれわれは知っていなければならない。この理想のつくり方、目標や志の立て方というのは５つあるんですよ。これも皆さん方自身が知っていただいておることが、皆さん方自身の幸せのために必要である。それだけじゃなくって、将来、結婚して、子どもができたならば、子どもが素晴らしい、生きがいのある人生を歩んでいくために、親がそれを子どもに伝えて、教えておいてあげなければならない、また重要な問題でもあります。また、会社の社長さん、あるいは上役であったならば、部下がその幸せな人生をですね、歩めることになるために、上司として教えておいてあげなければならない人生の知恵である。自分のためにも、子どものためにも、部下のためにも、ひいては、社会全体の成長のためにもですね、われわれはこの理想の持ち方というものをですね、ちゃんと知っていなければならない。**

**今は世界が理想のない時代である。日本にも理想はない。こんな素晴らしい国にしようという理想はない。こんな素晴らしい社会にしようという理想はない。みんな理想が持てなくなってしまったんだ。現実と事実に足を引っ張られてしまって、事実が大事だ、知識が大事だ、情報が大事だというね、そういうこの情報化時代の悪弊に犯されてしまって、生きる原点である理想を持って生きるということがね、誰もできなくなってしまった。何がしたいのっていっても、何かわからんというような、そういう時代ですからね。何を理想にすることが、この素晴らしい人生を歩むためのですね、この原理なのか。それがわからなくなってしまったんですね。だから、21世紀になったというのにですね、世界中にはいっぱい素晴らしい人がおるはずなんですけども、誰もね、まだ21世紀の社会をこういう素晴らしい社会にしようよっていうね、そういう提案を、この人類に投げ掛けてくる人物が誰もいない。人類は全体として、今、理想を見失ってしまったんだ。理想をつくれなくなってしまったんだ。あとはどういうふうにすればですね、自分がなんのために生きるのか。この命をなんのために使ったらよいのか。この命をなんのために使うならば、自分は幸せになるのか。この命をなんのために使って生きることがですね、この自分の人生にとって喜びになるのか。そのことをですね、われわれは真剣に考えなきゃならない。**

**理想のつくり方というのはどういうのかといったらですね、まずは、この歴史的、時代的な問題、課題というものをですね、歴史的な課題、時代的な問題というものをですね、俺がやったろうやないかという、そういうこの意識で、歴史的課題、時代的課題を自分が引き受けて立つというね、そういうこの理想のつくり方がある。今、これから日本人は、アメリカ人に代わって、世界の目標となり、世界のリーダーとなり、あらゆる面において、全人類が日本人を目標にして生きるというですね、そういうこの目標づくりのリーダーシップを取らなければならないんだ。だから、われわれは、その意味においてはね、どんな仕事をする場合でも、自分はその仕事において世界の頂点を極めようという、そういうこの生き方をしなければならない。それが時代的使命を担うということですね。これまでは、アメリカが目標だった。これからは日本が目標になるんだ。じゃあ、日本が目標になるために、日本人はどうしたらよいのか。それはあらゆる職業において、日本人がその頂点に立たなければならない。そのことによって、全世界は日本を目標として生き始める。そういうこともね、この歴史的課題を担うという、そういうこの意味での目標、理想を持つ方法なんですね。次、社会的問題というものをですね、俺がなんとかしたると思う。そういう仕方でですね、自分の人生の理想というものを持つことができる。社会の中にあるさまざまな問題というものをですね、自分がそれを引き受けて立ってやろう。俺がなんとかしたろう。そういうふうにね、思うことも、また理想をつくる方法であります。**

**３番目は、この自分の身に降り掛かる、自分の身に降り掛かるさまざまな、この事件とか問題というものをですね、それを自分の人生を考えるですね、生きる目標にする。例えば、自分のお父さんが、殺されてしまって、だけど、犯人がなかなか捕まらない。そういうこの事件からですね、警察官になろうと思ったりね、そういうこの自分の身に降り掛かる、さまざまなこの環境条件というものをですね、自分の将来の生き方、目標に結び付けていくという、そういう目標の設定の仕方もあります。**

**それから、４番目は、この自分の命から湧いてくる欲求というものをですね、自分のこの理想にしていくと。それから、欲求というのはなんなのかというとですね、これは、すでにお話をしたことですけども、どんな人間になりたいのか。どんな仕事がしたいのか。将来、どんな生活がしたいのか。そのようなことを自分に問うことによって、自分の命からこんなになりたい、こんなことがしてみたい、将来こんな生活がしたいという、そういう欲求が湧いてくる。欲求というのは、まだ実現されてないから、欲求だ。だから、だから人生の目標になる。人生の理想になる。欲求というものを、欲求こそまさに理想だ。欲求こそまさにこの志だ。欲求こそまさに目標だ。そういうふうに考えてですね、自分の欲求というものを自分の理想として掲げながら生きる。そういう生き方もあります。**

**それは、また自分の命から湧いてくる問題意識に人生を懸ける。自分の仕事の中から湧いてくる問題意識、自分の生活の中から湧いてくる問題意識、その問題意識に人生を懸けるという、そういう方法もある。ここのところ、もうちょっと便利にならんかなというので、そういうこと、そういう問題意識が湧いてきてもですね、ほとんどの人は、いいか、誰かやるさと、こう言ってしまうんだけども、そうじゃなくって、俺がなんとかしたろうと。そういうふうに思うことですね。なんか、納得できへんな。それをなんとか納得できるものにしよう。そういうみんなが持っておる悩みとかですね、誰でもこの仕事をしながら、何かしら感じる。そういうこの問題意識というものをですね、自分の人生の生きる目標にするという、そういう方法もあるわけですね。それは今、自分のやってる仕事の中から湧いてくる問題意識、それは現実への違和感というように申しますけども、この現実への違和感というのは、これはなんなのかといったら、なんかもうちょっと便利にならんかなというような、おまえこそ、まさにそこのところをもうちょっと便利にするために、この時代に生まれてきてそこにおるんや。おまえの出生の理由、おまえの存在理由は、それをするためなんやということを直接に自分に天が、歴史が語り掛けてくれてるというのがですね、この今、自分が仕事をしながら、生活をしながら、そこから湧いてくる問題意識ということなんですね。だから、それは立派に人生の理想、目標、志、課題になり得る。どういうふうにしたら、理想に燃えて生きるという人生をつくれるのか。どうしたら、その命が燃える理想、命が燃える志、目標というものを自分が持てるのか。その方法論をですね、そういうふうにして、わかっておいてもらいたいと。そしたら、誰でも理想は持てる。**

**とにかく基本的にですね、より以上求めて生きるという生き方をするためには、まず理想をどうつくるかということが課題になってくる。理想がなければ、現実に流されてしまう。目標がなければ、現実に流されてしまう。現実に流されるということは、自分を見失ってるんだ。理想こそまさに本当の自分である。目標、あるいはこの志というものを持つ、それが自分を持って生きるということの証なんだ。理想がなかったら、目標がなかったならば、人間は自分を見失ってるということになってしまう。それは自分のない人生だ。自分のない人生だから、流される人生だ。人に命令されたとおりに動いてるしかない。人にどう言われようと、俺はこうしたいというものがあって、初めて俺の人生が始まる。それが自分の人生をつくる方法だ。だから、われわれは自分自身で、このつくっていく理想というものを持っていなかったら、人間として人生、生きていけない。他人の命令のままに動く人間は奴隷だ。人間ではない。人間は意志を持って初めて自分の人生を生きることができる。自分自身で目標をつくらなければならない。そのために、人間として生きていくために、自分を見失わないで生きていくために、生きがいのある、命が燃える人生を歩むために、われわれには目標が必要だ、理想が必要だ、志が必要だ。その人間として生きていくためになくてはならない理想をどうつくるかという、この方法をですね、ぜひちゃんとわかっておいてもらいたいと。**

**時代や歴史が持っておる問題、課題、悩みというのをね、なんとかならんかな、なんとかならんかなと言ってるんじゃなくって、俺がなんとかしたるという、そういう仕方で理想がつくれるんだということですね。ほとんどの人間が、みんなその状況を嘆くだけであって、俺がなんとかしたろうって、そういう理想に燃えて生きるということを、そのことを通してしようという人間がほとんどいなくなってしまった。事実や現実に足を引っ張られて、事実ではない、現実ではない、夢を語る、理想を語るという力をなくしてしまったんですね。これが、科学的な理性の使い方に偏ってしまったですね、人間の不幸であります。科学は事実を探究する。だけど、哲学は理念を探究する、理想を探求する学問だ。事実にとらわれることなく、事実にとらわれることなく、この理念、理想、夢を語る。その哲学的な思考能力が、学校教育の中から完全に抜け落ちてしまった。だから、みんな夢が語れなくなってしまったんだ。全世界が科学的な理性の使い方しか、この学校で習ってない。だから、立派な指導者でも、夢がないんだ。現実の目の前の問題に右往左往して、そして、その事実ではない夢というものを構築するですね、能力をみんななくしてしまった。だから、閉塞感が漂っておる。どうしたらいいのかわからない。もうそういう、この困った状況なんですね。子どもたちにも夢がない。大人にも夢がない。ただ、今の現実、その問題に苦しんでるだけだ。**

**それを明治維新のですね、時代のように、黒船がやってきた。みんな一般の人は右往左往してる。だけど、俺がなんとかしてですね、国を守ろう。そういうふうにして立ち上がった人間たちが、あの維新の志士というふうにね、言われる若者たちである。国家的な、そういう難題をですね、俺がなんとかして国民を救おう。俺がなんとかして国を救おう。そういうふうな、この志に帰っていったとき、人間は命の燃える生き方ができるわけですね。国家のために生きる。国民のために生きる。家族を守るために生きる。そういうふうなですね、生き方が、できてくるわけであります。とにかく理想のつくり方というものをですね、まずわかって、なんらかの理想、志を持って生きてるという、そういう状態をつくってもらいたいんですよね、早く。自分の目標はなんなのか。何を実現することに自分は命を燃やすのか。そのことをまず思ってもらいたいと。だから、まずその歴史的、時代的な課題というものを自分が引き受けて立つか。あるいは社会的問題を自分が引き受けて立つか。あるいは自分の身に降り掛かるさまざまな出会いというものをですね、自分の目標、理想というものに変えていくかですね。**

**もうこれは、自分の身に降り掛かる難題、課題というだけじゃなくってね、いろんな出会いがありますからね、出会いを通して、自分が理想をつかむということですけども、これはもういい先生と出会って、その先生を尊敬できるから、その先生みたいになりたいというね、そういう出会いから目標をつかむ人もおりますし、また、いい歌手の歌を聴いて、自分もああいう歌手になりたいという、そういうふうなスターを目指すようなね、そういう目標のつくり方もあると思います。もうそれは全部、自分の身に降り掛かるさまざまな出会いというものを原理にしながら、この自分の未来をつくっていくという方法論ですよね。だけど、出会っても、全然、感動もしない、そういう人がおりますから、出会っても出会いにならないで、いろいろな出会いがあるのに、全然理想がつかめないというね、そういう人もおるわけですけども、それはやっぱ、理想をつかもうと思ってないからつかめないんですね。何か命を燃やすものが欲しいと思ってたら、必ず出会えるんですけどね。**

**だけど、そういう何かしら、夢がなければ人生ではない。理想がなければ人生ではない。目標がなかったら、命は燃えないんだ。何かしら、そういう命を燃やすものが欲しいと思って探しておったらね、そしたら、いい歌手に出会って、自分もあんな歌手になりたい、あんなスターになりたい、ああいうアイドルになりたい。そういうこの希望も出てくるわけですけどね。そういうやっぱり、意欲がなかったら、そういうことになりませんよね。何かしら常にわれわれは、そういう意味自分が命を燃やすことができるような、目標、理想、志というものを求めていなければならない。でないと、出会えないんですね。出会っておっても、その出会いを生かせないし、また目標がつかめないんですよね。だから、人間は自覚的に求めるということがものすごく大事なんです。問いを持つことが。本物の人間ってなんだろうと思ってると、本物の人間になれる。ですから、求めなければ入ってこない。腹が減らんことには食えませんからね。腹減ったという欲求が、食うという、そういうこの獲得するということをさせるわけですからね、求めなければ入ってこない。問わなければ答えは出てこない。だから、何かしら、より以上のものを求めて生きるということをしようと思ったならば、そのためには、まずは理想というものを求めなければならない。理想がなかったら、自分がない人生だ。理想があって初めて自分の人生だ。だから、われわれは積極的に、自覚的に理想を求めなければならない。なんのためにこの命を使おうかということをですね、求めなければならない。自分が命を燃やせるものはなんだろうということを真剣に求めなければならない。**

**求めたら、必ず出会いますよ。求めないから出会えないんだ。本当にこの幸せな、充実した素晴らしい人生というものをわれわれが求めようと思ったら、それが欲しいのならば、われわれは絶対に何かしら命を燃やせるものを求め続けなければならない。求め続ければ必ず出会える。求めなければ、求めないから、見つからないんだ。求めよ、さらば開かれん。「たたけよさらば開かれん」というのはイエスの言葉ですけどね。求めなければ、たたかなければ、反応は出てこない。求め続ければ必ず獲得できる。だけども、人間の成功、不成功はね、こんだけ求めてるのに、デートでもね、何時に会いましょうって約束してですね、その約束の時間に相手がなかなかやってこない。１時間待って、２時間待って、３時間待ってもやってこない。こんだけ待っても、もう来やへんのやったら、もう駄目なんやなと思って、そこで帰ってしまったら、そこまでの愛なんですね。それ、12時間でも、一日でも待っとったりしてね。もう待ってへんやろうと思って、相手がやってきたら、まだ待っとったと。その感動が、もう負けたわというんでものにすることができるというね、そういうことになるわけですよ。求め続けて、こんなに求め続けても見つからんということはもう駄目やと思ったら、そこまでの思いなんですね。なんでもこれは人生というのはね、手に入るまで求め続けることが大事なんですよ。**

**よく昔は弟子入りでね、弟子にしてくださいなんていうようなことで、それは現在では就職みたいなもんですけれども、弟子にしてくださいといって、お師匠さんに頼みに行っても、なかなかそう簡単には弟子にしてもらえない。なんとか、どうしても弟子にしてもらいたいと思う人はね、そのお師匠さんの家の門前に座るんですね。それで、どうしても弟子にしてもらいたいということを、座る、その家の前に座ることによって、思いをそのお師匠さんに示すことになるわけですけど、もう朝見ても座っとる、昼見ても座っとる、晩見ても座っとる。いつ寝とるんやろうなと思うぐらい座っとる。もう雨が降っても、雪が降っても、風が吹いても座っとる。なんていうやつやと思って、よっしゃ、わかったと。弟子にしようということになるわけですね。だから、そういうこの求める気持ちの弱い人間はね、こんだけ座っとっても、お師匠さんが全然、振り向いてくれんということは、もうこれは脈がないなと思って、そこで帰ってしまったら、それまでの思いなんですよ。人生というのは結果が出るまでやらないと駄目なの。途中でやめてしまったら、もうゼロなの、これはね。これは恋愛でもなんでもそうだ。どこでやめるか。そこまでの人間、そこまでの思い、そこまでの愛ということなんですね。**

**自分が欲しいものは手に入るまで頑張る。必ず手に入るんですよ、これは。こんだけやっても駄目だったら、もう駄目だ。そこまでの人間なんだ。その程度の人間なの。その程度の愛なの。これ、ものすごく大事なやっぱり、人生の秘訣ですね、これはね。発明王のエジソンさんというのでもね、なんであんなにたくさんの発明、発見をできたのか。また、いろんな発明、発見に関わったのか。あれは、エジソンさんのですね、そういう失敗ということに対する解釈の違いなんですね。普通の人は、こんだけやっても駄目だったら、もう駄目だと思ってしまうんですよ。だけども、エジソンさんは、こうやったら失敗する、こうやったら失敗するということをわかってくるんだから、どんだけ失敗しても、失敗するということは、これはだんだん、だんだん、だんだん、だんだん、段々畑でですね、成功へと一歩一歩、近づいてるんだとこう、解釈するんですね。こうやったら失敗する、こうやったら失敗するというのが、だんだん、だんだん、わかってくるんだから、もうちょっとで成功かもしらん。そういう思いがあるからですね、ここでやめたらもったいないと思ったりして、そのやめられない止まらない、かっぱえびせん状態になってしまって、成功するまで頑張っちゃったというのが大発明家になった理由なんですよね。**

**普通の人間はですね、もうどんだけやっても失敗で、もうなんともならん、もう駄目やなと思ってしまうんですよ。だけど、あの『プロジェクトX』の世界というのは、まさに不可能を可能にする世界だ。普通の人間がここで駄目だ。もう万策尽きたと思うところから頑張るんですね。それが、あのまさに不可能を可能にする、今、話題の『プロジェクトX』の世界ですよ。結果が出るまでやり通す。なんとかなるはずだと。なんとかなるまでやり通す。だから、思わざるところからね、ヒントが出てきて、ああ、こうだと思ってやったら、成功しちゃったというね。そういうことにもなるわけですね。とにかく求めなければ手に入らない。手に入るまで求め続ける。それがやっぱり、人生を生き切る力の強さということですね。とにかくこの、どういうふうにして自分が命を燃やすことができる理想をつかめるか。その方法論をね、まず知ってもらって、そしてそれが手に入るまで、とにかく求め続けるというね、そういう生き方をぜひ、してもらいたいと。だけど、そういう生き方をする、また基本がどこにあるのかといったら、今、自分がしておる仕事、今、自分の手に与えられておるものに真剣に関わってですね、今、自分がやってる仕事の中から、何かしら、自分が命を燃やせるものをつかもうとする努力をすることしかですね、人生をまた生きる、この本当の道はないんですよ。**

**今、この会社には自分の命を燃やせるものがないと思ってね、どこかにあるはずだと思って求めていったら、これは迷いなんですね。そのことを教えてくれるのが、あのチルチル、ミチルの『青い鳥』、小鳥という童話なんです。あれは童話じゃなくて、実は大人に対する寓話なんです。大人に人生を教えるための寓話なんですよ。例え話なんですよ。本当は自分の幸せの種になるものは、自分の未来は、もうすでに自分の手の中にちゃんと与えられておるのにね、その自分の手の中にあるもののありがたさ、大切さに気が付かないで、もっと素晴らしいものがほかにあると思って、そして、その求めていくんですね。だけど、どこを探しても、青い鳥、小鳥はいない。家に帰ってきたら、自分の家の中にある鳥かごの中にすでにおったということがね、わかった。いろんなものを見て初めて、自分の手の中にあるものの素晴らしさに気が付いたというね、そういうことなんですね。これは一般的には、外国のことをちゃんと知らないと、日本の素晴らしさがわからないというようなね、そういうふうな言い方で言われますけども、自分の手の中にあるものの素晴らしさというのは比較しないとわからないんですよね。だから、ついつい、自分の手の中にあるものの素晴らしさに気が付かないで、ほかに求めていってしまう。だから、それは迷いだ。**

**人生というのは、自分に必要なものは、もうすでに天から、神仏から与えられてるんだ。自分の手の中にあるものを大切にする以外にですね、人生を素晴らしく生きる道はないんだ。今、自分に与えられておるものに真剣に関わらなければ、自分の人生の未来は見えてこないんだ。今、自分に与えられておるものというのは、これは自分で選んだものであれ、他人から勧められたものであれですね、これは人智を越えた計らいによって、自分に縁を持ったもんだ。この人智を越えた計らいというのは、人間のこざかしい考えを越えた考え、越えたもんだ。この人間のこざかしい考えを越えたですね、大宇宙の力、人智を越えた働きに、われわれは自分の身を任す。それが天意に沿って生きる。あるいは、この宇宙の意志に沿って生き切るというね、生き方の基本であります。その意味でも、今、自分がやってる仕事の中からですね、何かしら、自分が命を燃やせるものを探そう、求めよう。そういうことがですね、まず、この自分が命を燃やせる人生をつくっていく出発点、基本なんですね。そうすることによって、だんだん、だんだん、自分がもっと命を燃やせるものというのが見えてくるわけですよ。まず求めなければ手に入らない。求めなければ見えてこない。求める気持ちがなくなってしまったら、もう絶対、手に入らない。とにかくこの命をなんのために使おうか。いったい自分が本当に命を燃やせるものはなんなんだ。それを激しく求めていく気持ちを持ったら、必ず手に入る。そういうふうにしてね、自分の人生の目標というものをつかむんだということなんですね。**

**だけど、その方法論としてね、そんなにむちゃくちゃな努力をせんでも、すぐに理想というものがつかめるという方法が５つある。その方法論を知っておくだけでも、随分と人生は助かるわけですよね。時代的、歴史的課題を自分が担おうとするか。社会的な問題を自分は担おうとするか。あるいは、自分の身に降り掛かるさまざまな出会いを通して自分が人生をつかむか。あるいは、自分の命から湧いてくる欲求を目標として自分が持つか。あるいは、この自分の命から湧いてくる問題意識ですね。問題というものを自分が受け止めてなんとかしていこうと思うか。この５つの方法がですね、この人間が命を燃やせる、自分らしい人生をつくっていくためのですね、理想のつくり方であります。とにかくより以上、求めていこうと思ったならばですね、まず、われわれは理想をつかまなければならない。何を目的に、何に命を使うのかということをですね、定めなければ、より以上を求めて生きるという道筋ができませんからね。**

**２つ目はですね、その人間としての成長意欲というものを持たなければならない。人間は成長するもんだ。人間は、おぎゃあと生まれてから、死んでしまうまで、さまざまな変化を遂げる。だけど、その変化を自然のままに放っておいてしまったらですね、マイナスの変化もあり、プラスの変化もある。その変化をプラスの方向に変化させる、させようとすることが成長することなんだ。だから、われわれは人間としてもっともっと自分を成長させよう、もっともっとビッグな人間になりたい。俺は人間としてもっともっと成長したい。そういう、この成長意欲を持ってですね、人生を生き切るということが、また人間として生きる、また基本なんですね。人間として、もっともっと成長したいという気持ちを持って生きることが、この本物の人間の生き方になるわけですね。どうしたって、変化はする。それを自然のままに放っておいたら、マイナスにぶれたり、プラスにぶれたりする。それを自覚的に生き切るところにですね、成長し続ける人生というこの見事な人生が始まるわけであります。変化しなければ、死んでるんですからね。だけど、人間は刻々変化してる。一瞬一瞬、変化してる。その変化の方向性をプラスの方向性に持っていこうと思ったならば、人間は人間として、もっともっと成長したいという、人間としての成長意欲を持たないと、人生をプラスの方向へ成長するという向きに向けることはできない。**

**生きてる限りは、なんらかの方向へ変化するんだ。だけど、自然に任せておいたら、マイナスの方向性に変化したりして、不幸になっちゃったりね。またプラスの方向に変化して成長したり、浮き沈みの激しいですね、何かしら、その目標のないような、目標の定まらない人生になってしまう。だから、プラスの方向性へのですね、成長の連続というね、そういうこの人生にしようと思ったならば、われわれは自覚的にそういうこのもっともっと、人間、成長したいという意志を持って生きなければですね、われわれは自分の人生を一歩一歩、積み重ねていって、成長していくという人生にすることはできません。人間として、もっともっと成長したいというね、そういうこの意識が非常にこれは大事です。男であったならば、男としてもっともっと成長したい。女性であったならば、女としてもっともっと成長したい。そういうふうなですね、人間としての成長意欲というものをなんらかの形で持たなければ、積み重ねとしての成長の連続というものをつくっていくことはできない。**

**で、この自分を成長させていく。人間として、もっともっと成長したいというね、成長意欲というものを具体的に実現しようと思ったらどうするかといったらですね、まずは、今日一日を生きた証、今日、自分が24時間、生きた意味はなんだったのかというですね、今日一日を生きた証というものを、一歩一歩、積み重ねながら生きていくというですね、そういう生き方をまず心掛けなければならない。今日も昨日と同じ今日だった。明日も今日と同じ明日だ。それじゃ、成長はない。だけど、ほとんどの人間が惰性に流されてね、そういう生き方をしてるから、さしたる成長をしないんだ。今日は昨日と同じ今日であってはならない。明日は今日と同じ明日であってはならない。一歩一歩、違わなければならない。それが成長の人生のですね、この鉄則ですよね。今日一日を生きた意味、今日一日を生きた証というものをですね、自分で意識的に積み重ねながら生きたならば、１年生きれば、365段階上る。それがですね、人間としてもっともっと成長したいということを具体的に実現する方法であります。**

**今日一日を生きた証というものをですね、積み重ねながら生きる。これはそういうことをしてるのとね、そういうことをやってないのとは、ものすごく大きな人生の違いができてくるんですよ、結果としては。毎日毎日、１ページずつ本を読んでも、１年たったら、365ページの本が読める。だけど、毎日１ページ読むということを自分に課してなかったら、１年たっても、１冊の本も読んでないという人生で終わってしまったりする。ここの違いはものすごく大きなですね、人間の領域の違いをつくってくるんだ。なんらかのですね、気付きとか、能力の成長とか、なんらかの積み重ねというものを自分が自覚的にやっておるかどうかでですね。１年たったら、人間に格段の違いが出てきてしまうんですよ。これ、恐ろしいですよ、本当に。365段階上った人間と、ずっと第一歩でとどまった人間とは、全然、これはもう値打ちが違ってきますからね。毎日なんらかの意味で成長するという積み重ねがあったならば、自分でも「アッと驚く為五郎」と申しましょうかですね、もう本当にもう、自分でもびっくりするほどの成長をね、してしまってるという自分を発見することができるんですよ。**

**私でも、なんでここまで来れたかって、その理由の１つはね、二十歳からね、感性論ノートというのをずっと付けてる。現在でも付けてる。感性論ノートというのは、感性で感じたことをね、毎日毎日、書き残していくんですよ。今日、新しく感じたこと、今日、生きた意味、価値はなんだったのかという、その気付きをね、毎日毎日、とにかく１日も逃さず書いていく。今日、べつになんにも得るところがなかったと思ったらね、夜、寝る前に１ページ、とにかく本を読んで寝るんですよ。１ページ。疲れてるときは、１ページ読むのもやっとで寝てしまうこともあるんですけども、ついつい、興味が出てきたりしちゃったりして、１ページ読むはずが10ページも読んじゃったりして、ちょっと成長し過ぎちゃったかなというようなね、そんな感じもあったりして。とにかくは、毎日毎日ね、そういう感じで、なんにもなかったら、１ページ本を読む。それをずっとやってきた。現在でもやってる。これがね、１年たったら、驚くほどのね、気付きの積み重ね、成長の積み重ねというものを自分につくってくれるんですよね。**

**そういうことをやってるか、やってないかはね、全然違いますよ。そういうことを自覚的にやらなかったら、結果としては惰性に流される人生ですね。ほとんどの人がそうなの。なんで、ほとんどの人が自分らしい人生というものをつくっていけないのか。それは仕事があるからやってるだけで、何も意味も価値も感じないでね、ただ仕事があるからやってる、惰性に流されて生きてしまってるから、成長しないんですね、人生は。仕事も生活もですね、なんの変化もないみたいなね、今日もまた昨日と同じ今日、明日もまた今日と同じ明日や。そういう感じで、仕事にも変化がないと。それは無意識的に、無自覚的に生きておったら、惰性ですから、変化はつくれないんですよね。それを自覚的に変化をつくっていくというね、ことをする。そのために、今日一日を生きた証というものを自分が何かしら積み重ねていったらね、本当にもう、自分でも驚くほどの人生になってしまうもんなんですよ、これはね。そうならざるを得ない。その努力をするかどうかで、自分の人生に輝きが出てくるか、平凡な人生で終わってしまうかが決まるんですね。それが人間としてもっともっと成長したいというね、そういうこの意欲がですね、人生をプラスの積み重ねとしてつくっていく原理であります。**

**もう１つはね、どんなことでもね、必ずプラスの面とマイナスの面がある。だから、人間として人生を成長のプロセスとしてつくっていこうと思ったならば、どんな事実でも、どんな環境でも、どんなことでもね、自分の人生のプラスになるように解釈しようという、また意志が必要なんですよ。うっかりすると、これはマイナスやと思ってしまったりして、マイナスやと思ったら、それは自分にとってマイナスになってしまって、不幸になるんですよね。だけど、これは自分にとってプラスやと思ったら、それだけ自分は幸せになるんですよ。成長できるんですよ。不況だから、もうからんのは当たり前やと。これは環境に負けてるんですね。環境に支配されてしまう。だけど、不況のときにしかできんことがあるというものをつかみ始めたら、たくましい成長がそこで始まるわけですよ。どんな環境でも、自分の人生にプラスになるように変えていくことができる。こんな女に誰がした。これは環境に負けた女の言うことですね。どんな環境でも、自分の人生にプラスになるように解釈をしていったならばね、決して、環境に支配されて、負けてしまうような人間にはならない。**

**その１つがね、問題とか、悩みというものは、確かに問題、悩みを抱えたら嫌やなと思うかもしれませんけど、それは自然に任せておいたらそうなる。だから、問題に負けてしまう。悩みに負けるんだ。だけど、問題、悩みは、人間を苦しめるために出てくるんじゃないんだ。確かに嫌なもんだけど、だけども、人間を苦しめるために出てくるんじゃないんだ。問題、悩みは人間を成長させるために出てくるんだ。問題、悩みがなかったら、人間は成長せえへんのだ。だから、問題から逃げたらいかん。向かっていかないかんと思う気持ちがね、その解釈が自分を成長させてくれるんですよ。それが物事をプラスに解釈するということなんですね。病気になっても、病気になって、会社を休まなきゃいかんから、もう自分は駄目やと思ってしまったら、もう駄目なんですけど、病気にならなければわからないことがある。病気が何かを自分に気付かせてくれる。病気になってつかんだことというものをもって、また健康になって立ち上がればね、病気にならなかった人間よりも大きな成長遂げることができる。あらゆるものを自分の人生にプラスにしていく。この解釈力がですね、また人間としての成長意欲ということに非常に大事なこれは方法論なんですね。**

**どんなことにもね、マイナスばっかりはない。どんなことにも、プラスばっかりはない。どんなことにもマイナス面はある。だけど、マイナス面に目を向けてしまったら、自分は不幸になるし、自分の人生は堕落してしまうというか、下降線をたどる。それはどんなことにも半分はプラスの面がある。その物事が持っておる半分のプラスの面を自分の人生に取り入れたならば、自分の人生は成長の連続だ。だいたい体験というのは、どんな体験でもですね、体験というのは、やった人間しかわからんというものを与えてくれますからね。病気にならないと、病気になった人間の気持ちはわかってあげられません。病気も重要な体験ですよ。そのことによって、いろんな人の気持ちをわかってあげることができる自分に成長するんですよね。そう思ったとき、人間としての成長意欲というのはかたちになるわけですよ。失敗した人間にしか、失敗した人間の気持ちはわかってあげられない。だから、失敗することも成長なんですよね。体験せんことには、本当のことはわからへんのだと。体験というのは、やった人間にしかわからんという成長を自分につくってくれるもんだ。やった人間、ヤッターマンですね。ヤッターマンにしかわからんという、この宝をね、自分に与えてくれるものが体験だ。人生はまさに体験の連続なんですから。**

**今日、朝起きたら、また体験しちゃう。もう一瞬一瞬、体験の連続ですからね、その体験から、そのプラスの面を自分が積み重ねていったならば、もう本当に「アッと驚く為五郎」ですよ。本当にもうどこまで成長しちゃうかわからん。朝起きたら、また体験しちゃうんですからね。また今日も成長しちゃう。もう本当に困っちゃうなっちゅうぐらい、成長しちゃったりして、もうどこまで成長するんだろうと思うような、そんなことにこう、なってきてしまうのはね、そういうこの素晴らしい解釈力を持った、解釈力を持った人間の人生ですよ。だけど、人間はそんなに完璧な存在じゃないからね、時たまに、この落胆したりね、悲しんだりすることがあるでしょうけども、そこから立ち上がる原理は、それをプラスに転換する能力を持ってるかどうかですよ。そのこと故に、俺はこんなに成長できた。そういうものをね、自分がつくれれば、立ち上がれるんですよ。**

**実際問題、人間が本物になるためにはね、いったん人間はどこかで人生の地獄を見て、その人生の地獄から立ち上がってくる、これが俺の人生の地獄だというね、そういうこの、いったんどこかで人生の地獄を見て、そこからはい上がってきた人間しか本物とは言えない。もうこれはよく経済界で言われることなんですよね。どん底から立ち上がってくる。そのことによって、人間は本当の人生を知り、本当のこの人間になるんだ。どん底まで落っこちてしまうということは、いろんなことを体験することですよ。だから、いろんな人のことがわかるんですね。大病になって、死にそびれになって、その人の気持ちがわかることができるようになったと。倒産して、倒産した人間の本当の気持ちをわかってあげて、その人を助けてあげることができる能力を持てた。いろんなことが全部、自分を成長させてくれるんですね。体験がなかったら、本当のことはなんにもわからん。体験は本当のことを自分に教えてくれるもんだ。だから、どんな体験でもマイナスはない。体験は全部プラスだ。何があっても絶望しない。全部をプラスの体験にしていく。それが成長し続ける人生というものをね、生きていくための方法論ですね。**

**物事にはどんな物事でもプラスとマイナスがある。マイナスの面を見てしまったら、自分は不幸になる。それをプラスに転換したら、自分は幸せになる。成長し続ける人生って、どんなことでも自分にプラスになるように解釈することだ。ああ、よかった。このことがあってよかったというふうに、あらゆるものをしてしまうんですね。そしたら、もう自分は幸せの連続だ。この問題に出会えてよかった。この悩みを持ててよかった。そういうふうにですね、していったら、もう全部が幸せなんですよ。実際そうなんですからね。実際に問題や悩みは自分を成長させるために出てくる。問題、悩みがなかったら、成長しない。この悩みがあったから、こんなことに気付けて、私は成長できた。そういうふうに人生をつくっていかないかんのですよね。ただ悩むだけで、なんの得るところもなかった。それはマイナスの人生ですよ。悩んだからには、そこから何かつかんで立ち上がらなければならない。離婚してもいい。離婚しても、離婚したことから何かを学んで、つかんで生きれば、またもっと素晴らしい人生が始まるんだ。なんにもつかめなかった。不幸だ。嘆いたら、自分は本当に不幸になってしまう。人間は不完全ですからね。失敗してもいい、離婚してもいい、罪を犯してもいい。ただそれをプラスにどう転換するかが大事なんだ。**

**安部譲二さん、昔、やくざだったんだけどね、だけど、そのやくざのときの体験を生かしたりしてね、塀の中の人々なんていうようなことを書いちゃったりして、その牢獄に入らないと書けないことを書いたからね、だから、牢獄に入ってない人のほうが多いから、それはベストセラーになっちゃったりしてね、いっぺん読んでみようなんていうようなことになってきて、小説家になっちゃったりして、今、タレントになったりして、もうけっこういい生活してますからね。生かせば幸せになる。昔、やくざだったということを引きずってしまったら、自分は不幸だ。どう生かすかですよね、その過去の体験を。生かせばプラス、生かさなければマイナス。そういうのが具体的にですね、この人間としての成長意欲というものをどういうふうに表現する、どう使うかということのですね、具体例であります、それは。とにかく、今日一日を生きた証というものをね、積み重ねながら生きる。体験にはマイナスがないんだ。あらゆることを自分の人生にプラスになるように解釈する。この２つがね、この基本的に人間というのは、成長意欲を持って人生を生きるという基本原理だ。**

**この人間としての成長意欲というのはですね、この人間というのは両面があって、能力における成長と、人間性における成長って両面があるんですよね。人間としてもっともっと成長したいということの場合には、能力における成長と、人間性における成長と、両面をいつも考えていなければならない。能力における成長というのはですね、これはこの潜在能力が出てきて成長する。これは能力の成長ですよね。人間性の成長というのは、これは人間性が成長するのは新しい気付きの積み重ねなんですよね。ああ、そうなんだとこう、気付いたときに、ふっと人間は成長する。他人に言われて、教育で成長するんじゃない。人間性が成長するのは、自分が気付かなければ駄目なんですね。どんなに他人に言われても、他人に言われたことは知識だ。頭で止まってしまう。人間性が変わるためには、自分の感性が変わらなければならない。自分の心が変わらなければならない。心や感性が変わるためには、気付かなければならない。自分が、ああ、そうなのかとこう、命にしみるようなね、そういう気付きを持ったとき、人間は自分で変わる。自分が成長する、変わる。他人に言われたことは知識で終わってしまいますから、人間は変わらない。観念で変わってるように思ってるだけであって、人間そのもの、自分そのものはなんも成長もしてない、変わってない。その人間の成長というのは、能力の成長と人間性の成長と両面があるんですね。**

**能力を成長させようと思ったならば、この潜在能力を引っ張り出さなければならない。これは学校では、先生が無理やりにそれをやってくれますからね。だから、毎年毎年、能力は成長するわけですよ。能力の成長というのは、潜在能力を引っ張り出すことですから、潜在能力を引っ張り出そうと思ったら、何が大事なのかといったら、今、自分ができないことをできるようにしていくという、この連続ですね。今、できないことが、いつまでもできないようじゃ、成長はしてない。能力が成長するということは、今日できないことが明日はできるようになっていく。それが能力の成長ですからね。だから、自分が今、持ってる力で、できることしかしようとしない。今、自分の持ってる力で、できないことはできませんって断って、それでよしとしておるようじゃ、もうその人間は成長が止まった人間だ。成長する人間は、今、自分の持っておる力で、できないことが言われたとき、あるいは、そういうことが要求されたとき、それもできる俺になる。それもできるようにしていこうと思ったとき、人間は成長できるわけですね。**

**本当にこれ、自分が成長したいと思ったら、今、自分の持っておる知力の限界、気力の限界、体力の限界に挑戦する。この限界への挑戦という生き様がですね、大事になってくる。スポーツ選手でも、やっぱり、世界記録を出そうと思ったら、今、自分の持ってる体力の限界に挑戦するというトレーニングをするわけですよね。そうすると、記録が伸びる。それが成長だ。限界への挑戦という、この生き様なしには、人間の本当の成長はあり得ない。今、自分の持ってる力でできることしかしようとしない。これはもう成長の意欲をなくした人間の人生だ。人間としてもっともっと成長したいと思うならば、なんらかの意味で、限界への挑戦という、そういう姿勢を持っていなければならない。知力の限界、気力の限界、体力の限界に挑戦する。この限界への挑戦という、この姿勢がね、成長の原理だ。**

**そして、人間性における成長というのは、これはなんなのかといったら、人間性の成長というのはですね、これは、人間性というのは、この性格と人格の絡み合いでできてるんですよね。人間性は性格という格と、人格という格が絡み合って、人間性をつくっております。性格というのは、これは自分でどうのこうのできないもんでね、性格というのは、気が付いたときにはこういう性格になっちゃうもんなんですね。なっちゃんというジュースもあるんですけども、なっちゃうものでね、なっちゃうものは、自然にできてしまうもんですから、もうどうしようもない。性格は自然にできてしまうもんで、なっちゃうままに放っておくよりしょうがないもんで、それをどうのこうのしようと思ったら、病気になっちゃう、また。だから、もう性格は個性ですから、これはもう自分がそれを引き受けて立つよりしょうがないもの。そういう意味で、さまざまな性格ができてくるわけですね。厳密に言えば、みんな性格は違う。**

**だけど、性格というのはですね、学問的にはどういう構造でできてくるかって、性格の50％は遺伝なんですよ。性格の50％は遺伝。あとの50％は、生まれてからのちに、自分が意識しない間に自分の中に積み重ねられていったものが性格として出てくるんですね。自分が意識しない間に積み重ねられていったものが性格として出てくるんだから、どうしようもないんですよ。意識的にやったものは性格にならないんですよ。無意識的に何かしら、自分の命に積み重ねられていくのが性格に出てくるんですよ。だから、性格と同種類のものはなんなのか。それは顔の相とかね、足の裏の相とか、へその相とかという、人間の体には全部、相がありますけども、そういうこの相というのは、これは自分ではどうしようもないんですよ。手相とかというのでも、自分で変えられない。だけど、気が付いたら変わっちゃってるんですよ。これは、自分が意識しない間に自分の中に積み重ねられていったものが相として出てくるんですよ。皆さん方が、ああそうと言ってもらうと、うまくオチが付くんですけどもですね。とにかく相というのは、これは自分が意識しない間に、この積み重ねられていったものが出てくる。それが肉体に出てくるんじゃなくって、精神の面、心の面を通して出てくると、性格になるわけですよ。手相と同じものが精神的に表現されたものが性格だ。だから、これはどうしようもないんだ。性格こそまさに個性ですね。そういう自然にできてしまう性格というものも、人間性の内容を成す半分のもんだ。**

**だけども、人間性は単に性格じゃない。人間性というのは、性格という格と人格という格が絡み合って人間性をつくっていく。人格というのは、これはなんなのかといったら、人格を持って生まれてくる人間はいない。おぎゃあと生まれたときには、人間は動物学上の分類における人類として生まれてくるのであって、人間は生まれてからのちに、自らが努力して、人間の格を獲得するということになるわけですね。だから、人間に生まれてきても、人間は人間になるとは限らない。オオカミに育てられてしまって、オオカミのお母さんのおっぱい、飲んじゃったりして育てられてしまうと、『狼少年ケン』になってしまったりしてですね、人間にならない。人格は生まれてからのちに、自分が努力してつくっていくものなんですね。人間の格というのは、自分が努力して獲得するものなんですよ。だから、性格は自然、人格は自覚なんですね。自覚的につくっていこうとしないとできない。だから、俺はこんな人間になりたいと思って努力しないと、人格はできないんですよ。性格は自然だから、あとは人格的に努力することによってしか、人間性は成長しないんですね。**

**じゃあ、人格的に努力するということは、いったいどんなことをすることなんですかっていったらですね、この人格というものには３つの魅力がある。人格には高さという魅力と、深さという魅力と、大きさという３つの魅力がある。だから、われわれは人間性を成長させようと思ったら、人格の高さを求め、人格の格の深さを求め、人格の大きさを求めていくって、そういうこの努力を具体的にやっていかないとですね、人間性は成長しない。性格というものには、プラス面とマイナス面があるんですよね。その性格の持ってるマイナス面が出てくると、他人から嫌がられる。性格の持ってるプラス面が出てくると、他人から好かれる。だから、この人間性を成長させるために人格を磨くとどうなるかといったらですね、人格を磨くと、自然にこの表れてくる性格というものが持っておるマイナス面があんまり出てこないようになってきて、人格を磨くと、性格のプラス面ばっかり出てくるみたいな、そういう形になっていってしまう。だから、なんとなく人間性がよくなったように見える。性格がよくなったように見える。だけど、性格は変わらない。だけども、人格を磨くと、人間性の持っておるプラス面がたくさん出てくるようになってくるので、なんとなくいい人になって、なんとなく性格よくなったように見えちゃうんですね。**

**あともう１つ、こんな性格、嫌やなと思ってる人にとってはね、性格は変わらんから、どうしたらその嫌な性格に対応できるかといったら、能力を磨くとね、能力を磨くと、また性格が評価されるんですよ。例えば、この小説書いちゃったりしてですね、その芥川賞とか、直木賞とかというような賞をもらっちゃったりするとですね、本当、どうなるかといったら、あ、ああいう性格だから、こんなすごい小説が書けたんだってなってきて、素晴らしい成果を上げると、能力が示した成果のほうがですね、性格に輝きを与える、価値を与えるという、そういう仕方で、その性格が評価されるように変わってくるんですよね。かえって、なんでもなかったら、嫌な性格やな、嫌なやつやなって言われてたところ、かえって、賞をもらうことによって、その性格に魅力を他人が感じてくれたりしてね、そういうことになって、その評価が変わってくるんですよ。**

**自分の性格が嫌やなと思う人は、性格を変えようと思ったらいかん。能力を磨くか、人格を磨くかすれば、必ず性格は他人から評価されるものに変わってくる。この方法を用いないとね、病気になっちゃう。性格を変えようと思うと病気になるんですよ。変わらんものを変えようとするから、無理がいきますからね。だから、あちこちね、内蔵の病が出てきたりして、命が不自然になっちゃったりして、その病気になってしまう。内臓の病気になる。そのことをストレスっちゅうんですね。変わらんものを変えようとするから、ストレスがたまるんですよ。結果として病気になっちゃうんですよ。変わらんものを変えようとしたらいかん。短所もなくならないんだから、なくそうと思ったら、病気になっちゃう。偏見もなくならないんだから、なくそうと思ったら病気になっちゃう。なくならないものは生かして使うっきゃないんだ。短所を生かせば謙虚な心ができる。偏見を生かせば、自分には偏見があると思うからですね、だから、他人の言うことにも耳を傾けようという、そういうこの謙虚なですね、大きな心ができてくる。**

**とにかく、人間性においても、成長を考えんといかんのですけど、人間性の成長というのは、この性格が変わらんから、人格を磨く。そのことによってですね、人間性が成長するということもですね、われわれは考えて努力しなきゃならん。人間性の成長とはなんなのかといったらですね、人格の高さを求め、人格の深さを求め、人格の大きさを求めていく。人格にはその３つの魅力があるんだ。そういうことに対する意識的な努力がですね、人間性、自分の人間性に、輝き、魅力をつくっていくんですね。なんて素晴らしい人間なんだろう。なんて素晴らしい人間性なんだろう。それはなんでできたのか。それは人格の高さ、深さ、大きさというものが成長したから。だから、人間性に魅力ができてきたんですね。**

**だから、そういう意味でもですね、われわれは、今の俺でええんやと。放っといてくれって、そういうふうなね、その現状維持でですね、満足するという、そういうこの状態になってはならない。やっぱり、この人間性においても、能力においても、成長していく。そのためには、基本的には限界への挑戦。今、自分の持ってる限界への挑戦。現在はこういう人としか付き合えんけれどもですね、またもっと違った人とも付き合えるように自分の人間性の幅をつくっていこう。そういう今、自分の持ってる限界に挑戦していく。そのことに生きがいを感じるようなね、そういうこの生き方をすることが、幸せな人生、成功の人生をつくっていくためにどうしても必要な課題なんですよ。性格の合う人間とばっかり付き合っておったら、それまでの人間だ。もうちょっと違った性格の人も付き合える。そうなれば、営業成績もどんどん上がってくるしね、会社も発展する。けっこう仕事は人間関係がどれだけつくれるかですからね。会社内でも、気の合う人と気の合わん人がいる。気の合う人と一緒にやってるだけじゃ、もうその人は成長が止まってしまう。今は気は合わんけども、その人ともちゃんと仲よくやっていけるように成長しようと思ったら、自分は成長できて、より仕事もはかどるようになってくる。そして、職場が楽しくなってくる。どんどん仕事も成果が出てくる。たくさんの人から好かれるようになってくる。そういう成長が実現できるわけですね。**

**だから、その意味でも、やっぱり、今、自分の持ってる力の限界に挑戦する。限界への挑戦というのは、これは、非常に大事な人生の鉄則であります。とにかく、まずは第２番目のですね、その人間になるとはどうなることなのか。人間になるとは、より以上を目指すというですね、そういう言い方をすることが人間になる道なんだ。より以上を目指すとは、目標を持って、そして、この人間としての成長意欲を持って、限界に挑戦していく。それが人間になるというですね、道筋を歩んでいく１つの原理だ。もう１つの原理があるんですけども、それはちょっと10分間ほど休憩を入れてから、後半の部分でお話をさせてもらいたいと思います。どうもありがとうございました。**

**（休憩）**

**芳村：皆さん方、わかってらっしゃると思うんですけど、こんなにきれいな会社ってめったにないですね。私も建築、建設会社でね、大林組とか、清水建設とか、いろいろ研修をさせてもらいましたけども、だけど、みんな中に入るとね、本当に汚らしいっちゅうたらいけませんけど、こんなきれいじゃないですよね。みんなもう本当にこう、雑然としたみたいなね、この事務所みたいなもんで、本当にこう、大手の建設会社といっても、ものすごく汚いと言ったらあれですけど、こんなきれいじゃないですね。こんなきれいな会社で働けるんですから、本当にもうそれだけでも幸せみたいなもんですね。薬品会社でもね、武田薬品とか、山之内製薬とか、社員教育で行きましたけれども、こんなきれいじゃない。日本生命でも、ビルはでかいんですけどね、だけども、中に入ったら、こんなきれいじゃないですよ。普通のビルですね、やっぱり。こんな美学的な、もうこれは社長さんの、やっぱり、精神性の高さでしょうけど、こんな美学的なね、構造を持った、また色彩を持った、こういう労働環境っちゅうのは、めったにないですね。だいたい医者の不養生とか申しますけど、建築会社なら、もっと立派な建築を建ててみたらどうやとこう、言いたくなるような本社が多いですよね。本当にこんな素晴らしい建築の会社っちゅうのは、ホテルの会議場みたいですしね。ゲストルームでも、喫茶店に入っちゃったみたいなんですよね。もう本当に、もう会社と思えんような会社で、もう本当に素晴らしいと思います。**

**次は、第３番目の本物の条件。最後の本物の条件ということなんですけども、この第３番目の条件は、どういうふうにして出てくるのかっちゅうということですね。とにかく、このより以上を目指して生きるという、第２番目の条件というものをですね、この追求していくことによって、価値の世界というものが成立するんですよ。価値というのは、より以上とか、より以下とかって、そういう質の違いがあるのが価値の世界なんですよね。これはより以上を目指して生きるという生き方をしないと、価値の世界というのは出てこないんですね。ですから、動物の世界には、価値の世界はない。神の世界には、価値の世界はない。より以上とか、より以下とかっていう、そういうものがあるのは人間の世界だけなんですよ。だから、人間の心、人間の本質である人間らしい心というのは、じゃあ、なんなんですかいうたら、人間らしい心というのは、意味と価値を感じる感性なんですね。だから、人間は意味を感じないと、やる気になんないし、価値や値打ちや素晴らしさを感じないと、命は燃えてこない。人間は価値の世界に住んでるんですよ。**

**じゃあ、どうして人間には価値の世界があるのかというと、これはより以上を目指して生きるという、そういう生き方をですね、人間がしてきたし、また現在もやってる。みんな、何かしら、より以上のものを求めてる。もっときれいになりたい、もっとスタイルよくなりたい、もっといい服が着たい、もっといい車に乗りたい、もっといい家に住みたい、もっと金が欲しい。もっと、もっと、もっと、もっとっていうのを、みんな求めてるから、だから、価値の世界というものが出てくるんですね。神様はもう完璧絶対だから、もっともっとといったって、もっとはもうないんですもんね。動物は本能に支配されてしまってるから、もっとっていうわけにはいかない。クモの巣で、もっといいクモの巣を張ろうなんていうようなことは考えませんからね。本能的にああいう形のクモの巣を張るっきゃないんですもんね。人間において、初めて、もっともっとっていうね、もっと素晴らしいものを求めていく。そういうこの世界が成立するわけだ。だから、人間の心は、意味と価値を感じる感性だ。そういう意味で、神が住んでる世界というのは、完全かつ絶対という世界である。動物が住んでる世界というのは、不完全かつ有限な世界である。人間の世界は価値の世界だ。そういうふうにね、区別をすることができるわけであります。**

**価値の世界とはいったいどういう世界なんですかというと、価値の世界というものには、この時間的構造と空間的構造があって、時間的な構造から出てくる価値と、空間的な構造から出てくる価値という、この価値というものには２つの価値の出てき方があるんですね。どういうふうにすれば価値を創造できるかという、この原理にも２つの原理がある。それは時間的価値と空間的価値というんですけども、時間的価値というのは、これは自分が努力をしてね、そして、その時間の経過に従って、どんどん、どんどん、成長していく、よくなっていく。それがこの時間的価値というですね、そういうものである。もう１つ、空間的価値ってなんなのかといったら、空間的価値というのは、同じ空間の中にある２つのものが結び付いてですね、協力をし合って働くことによって、そこから価値や意味が出てくるって、そういう価値の生産の構造もあるわけですよ。自分が努力して成長していくという価値と、それから、この２つのものが協力し合うことで、そこからその協力という関係性から生み出される価値というのがあるわけですね。それを空間的価値というんですよ。**

**この全宇宙は、あらゆる存在が有機的に絡み合って動いてますからね、だから、この空間というのは、まさに空間的価値の世界というかですね、意味と価値に充満した世界がこの空間というふうに言うことができる。だから、建築空間というのは、その空間にどういう意味を持たすかということなんだ。これが建築の哲学でね、空間にどういう意味を持たせるか。この家というのは、こういうこの、建ってるところというか、こういうこの、枠組みのところにその価値があるんじゃなくって、家の価値は、その枠組みに囲まれた、この空間に価値があるんですよね。その空間にどういう意味を持たせね、どういうこの価値を持たせ、どういう機能を持たせるかというのは、建築学というものがさまざまに、建築思想というものをつくっていく、この方法、考え方なんですね。建築というのは、こういう枠組みを組み立てていくんですけども、家の価値は、枠組みにあるんじゃなくて、この中に空間にあるんですね。その空間の意味と価値、値打ち、素晴らしさというものを住んでる人にどう感じさせるか。それが建築力という、建築というものが意味を持つですね、その原理、理由なんですね。空間の形をどうつくるかが建築なのであって、外の形じゃないと。空間にどういう雰囲気を持たせるかですね、それが建築思想ですね。**

**とにかく、この宇宙というのは、あらゆるものが有機的に絡み合ってますから、何かしら、有機的に絡み合えば、そこから必然的に意味や価値が出てくるんですね。それが空間的価値である。この人間の世界は価値の世界であって、価値の世界は人間にのみ固有の存在領域である。だから、人間は価値の世界とはなんなのかということをちゃんと知らないと、人間としての本物の生き方ができない。価値の世界には、時間的価値と空間的価値がある。時間的価値というのは、これは第２番目の本物の条件で申し上げた、より以上を求めていくということによって、この価値の世界の時間的価値というもののあり方をもうすでにこれは埋めておる。だから、もう１つ、最後にこの本物の条件として考えなければならんのは、この価値の世界のもう１つの空間的構造というものをですね、考えていくことによって、最後の本物の人間の条件というのが出てくるんですね。**

**空間というのは、今、申し上げたように、同一空間内にある２つのものが関係を持つことによって、その関係性の中から出てくるものが、空間的価値というふうに言うことができるものです。だから、そのA子さんとB男君が結婚すると、A子さんとB男君が結婚しなければ出てこない個性ある価値がこう出てくるわけですよね。それがうまくいくとですね、そのA子さんとB男君が一緒に生活し始めると、そこからプラス価値が出てきて幸福になるんだけども、うまくいかないと、マイナス価値になっちゃったりして、もう結婚した途端に、もう夫婦げんかでね、もうどんどんお互い不幸になっちゃったら、不幸なマイナスの価値が出てくるということもある。とにかく、何かしら関われば、必ずそこからなんらかの意味や価値が出てくるというのがね、この空間的価値というものの構造であります。そういうことをですね、原理にしながら、人間の本物性ということを考えていくことになるわけですけど、空間的価値というのは、この空間というのは、われわれが今、生きとる社会そのものが、この空間ですからね。だから、空間的価値とは社会的価値である。社会的価値とは現実的価値である。そういうふうに、言うことができるわけですね。**

**その社会の中でですね、われわれ一番、この大事にしなければならないもの。社会というものの根底を支配しとる原理はなんなのか。もうそれはですね、この自分の価値は他人が決定するという、そういうこの原理が、社会の根底の一番根底に働いてる、土台に働いておる価値観であります。自分の価値は他人が決定する。自分がどんなに素晴らしい能力を持っておってもね、他人からですね、おまえ、すごいなと言ってもらわないと、価値が出てこないんですね。他人に評価されなければ一文の価値もない人間だと。それが現実の社会というものの持っておる厳しさなんですね。どんなに立派な大学を出ておってもね、おまえなんかいらんと言われたら、もうこれはゼロの人間ですからね。他人から評価されるかどうかで、自分の現実的価値は決まる。現実的価値はなんなのかといったら、金もうけができるかどうかが決まるわけです。他人に評価されれば、金が入ってくる。他人に評価されなければ、金は入ってこない。これはもう非常に具体的な問題ですよね、これは。どんなに自分が威張っとったって、他人から評価されなければ生きていけない。社会の中では。**

**だからどうかっていったらですね、だから、われわれは社会という、この空間的価値というものにおいてはですね、自分の価値は他人が決定するという、そういうこの原理が働いてる。だから、われわれは、社会に出たならばね、何が一番大事なのかというと、社会に出たならば、この人の役に立つ人間になる。人の役に立つことをしないと金が入ってこない。だから、人の役に立つ人間になるということをですね、まずこの本物の人間の印として考えなければならない。人の役に立つことができる人間になるということがですね、まずは社会の中で生きていく基本原理だ。その人の役に立つということは、もう少し価値を持ってくると、人に必要とされる人間になる。そういう意識になってくるわけですよね。この人の役に立つ人間なり、人に必要とされる人間になるということがですね、これがこの社会の中で本物の人間というふうに、こう言われる条件であります。そのことを考えてですね、われわれは自分が努力して磨いた能力というものを、社会においてはどういうふうにその能力を表現すればですね、人に喜んでもらえるのかということを、考えなければならないと。人に喜んでもらえるようなですね、そのことをしないと、金が入ってこないんですから、だから、自分一人よがりでですね、これはいいんだ、これは高度なんだ、これは素晴らしいんだと言っておっても、人がそれを高度で素晴らしいと感じてくれなかったら、そこには価値が生じない。それが現実であり、それが社会というものですからね。だから、人にちゃんとわかってもらえるようにですね、そのことが説明できなければならない。**

**そういうことをですね、考えていくためにはですね、社会性とはなんなのか、社会とはなんなのかということをね、まずちゃんとわかってもらわなければならない。社会の中で生きていくための基本はなんなのかといったらですね、社会の中で生きていくための基本、まずは、相手が言うことを誤解することなく理解する力。相手のことをちゃんと誤解することなくわかる力がなかったら、社会の中で生きていけない。それだけでは一方的ですから、もう１つ、自分のことを相手に誤解されることなくわかってもらう力。これがあって初めて社会性というものを持って、社会人として生きていくことができるんですね。社会の中で生きていくための基本は、相手のことを理解する力、相手のことを本当にちゃんとわかってあげることができる力。だから、自分のことをちゃんと相手にわかってもらう力。これが社会性というふうに言われるものの原理、原点なんですよね。相手のことが理解できないようじゃ、社会生活はできない。自分のことを相手にわかってもらう力がなかったならば、相手から誤解されたならば、社会的な人間関係をつくっていくことはできない。**

**だから、われわれは、相手のことをどんな人のことでも、ちゃんとわかってあげる力を成長させていくという努力をしなければならない。どんな人のこともちゃんとわかってあげることができる、誤解せずに。誤解せずにちゃんと相手の気持ちがわかってあげることができる。相手の考えをわかってあげることができる。相手の要求をちゃんとわかってあげることができる。これも商売をしていくうえ上でも、まずお客さんの気持ち、お客さんの考え、お客さんの立場というのをちゃんとわかってあげるということが、あらゆる商売のまずは原点ですからね。そして、自分が扱う商品のことをちゃんとお客さんにわかってもらえる。そういうこの力をつくっていって、初めて相手の要求とこちらの示すものが合致して売れるということが出てくるわけですよね。相手の要求にこの商品は合ってますっちゅうことを相手に納得させれば、売れちゃうわけですよね。まず相手の求めてるものがちゃんとわからなければならない。相手が求めてるものをこちらが提供する。これはあなたが求めておるものですよっちゅうことをちゃんと相手に説明する。ちゃんとそれがわかってもらえる。そのことによって、商売、人間関係というのはこう、成り立つようになってるわけですね。**

**だけども、なかなか相手のことを正確にちゃんとわかってあげようとする努力を徹底的にする人間は少ない。なんかしら、相手のことを誤解しちゃったりしてね、人間関係を悪くしてしまう。また自分のことを相手に説明する場合でもね、その相手がなかなかわかってくれへんと、むかついてきたりして、まだわからへんのとなってきたりして、その相手を責めてしまう。相手がわかるように説明する力をつくっていかないと、社会性はないのにですね、わからない相手を責める。これは社員教育をする場合でもそうですけども、その社員に上司がいろいろ教える場合にでもですね、そのいろいろ教えながら、早くわかる人はそれでいいんだけど、なかなかわからへんと、まだわからへんのか、まだできへんのか、なんでこんなことぐらいできへんねやと、こう、できない人、わからない人を責めるんですね。それはこの上司に人間としての成長意欲がないんですね。上司が人間としての成長意欲を持っておったならば、わかるように説明できない俺の能力が未熟なんだとこう、思わないといけない。人を責める気持ちがある分だけ、自分は成長できない。人を責める心は醜い心である。人を責める心は、自分の心を汚してるんだ。自分の魂を汚してるんだ。人を責めるという、この心がね、病気をつくってしまうんですよ。心が病めば、肉体は病むんですよ。人を責めるというこの心は、病んだ心なんですよ。**

**その反対に、相手がわからへんのは、わかるように説明できない俺が悪いと思ったら、それは健康なね、プラスの成長する心ですからね。だから、命も健康になってくる。そして、人間関係がうまくいって、自分は幸せになれる。人を責めれば、自分も不幸、相手も不幸。相手がわかるように説明できない俺に問題があると思ったら、人間は成長できる。だから、成長するから幸せになる。そして、相手からも好かれる。万々歳だ。ついつい、人を責めて、自らの心が病んでるということを忘れてしまう。どんな問題でもですね、社会に起こる問題というものは、自分が絡んでしまった場合にはですね、99％相手が悪い場合でも、自分が絡んじゃった場合には、俺のどこに問題があったからこんな問題に絡んじゃったんだろうかということをまず考えて、俺にもこういう問題があるということを相手に言って、だけど、君にもこういう問題があるよねというので、だんだん、だんだん、問題がほぐれていくんですね。だけども、90％も99％も相手が悪いとなった場合には、もう自分のことは棚に上げて、相手ばかり責める、相手に反省を求める、相手に謝罪を求める。それで終わってしまおうとする。そこに、理屈はわかってもね、何かしら心のわだかまりが残って、もう一つ、しっくりこない。なんかこの嫌な感じで終わってしまうんですね。**

**とにかく相手を変えようとか、相手を成長させてあげようじゃなくって、自分が成長することが大事なんですからね。だから、まずはとにかくは、相手がわからん場合には、それをわかるように説明できない俺のほうに問題があるって、そういう、理解の仕方をしないとですね、自分は成長できません。また、自分が相手から尊敬されたり、相手から好きになられたりということはなくなってしまいます。人を責めれば嫌われる。誰でも批判されたくない。けなされたくない。見下げられたくはない。みんな褒められたい、認めてもらいたいんだ。みんな愛されたいんだ。そのことをですね、忘れてしまっては、社会というものは成り立たない。だけども、残念ながら、権利を主張してお互いに責め合う。何かしら、相手を責めて、自分が勝つみたいなね、そういうふうな構造で、何かしらこう、人間関係がぎすぎすするような、そういう状況をついつい、つくってしまいやすいんですね。**

**とにかく、この社会を生きる基本にですね、われわれがちゃんとわかっていなければならないことは、自分の価値は他人が決定する。他人から評価されなけりゃ、一文の金も入ってこない。金が入ってこなきゃ、社会生活はできない。だから、自分が努力して自分の能力をつくっていくという、この第２番目のですね、より以上を求めて、より以上を求めていくということは、これは基本的に大事なことなんだけど、そこでつくった力をどうすれば社会においてですね、他人に評価されるような仕方でそれを使うことができるか。どうすれば、その力で人の役に立つことができるか。どうしたら、人に喜んでもらえるか。そのことを今度は考えていかないと、社会人としては本物ではないと。自分の力を伸ばしていくという点においては本物なんだけど、それは個人の問題だ。社会の現場で何が一番本物の印なの。これは、その人の役に立つという、そういう生き方ができるかどうかがですね、社会人としての本物か偽物かを決める基準である。だから、人の役に立つことができないということは、社会人としても偽物なんですね。だから、人に喜んでもらえるような仕事の仕方をする。人に感謝してもらえるような仕事の仕方をする、しようと思って努力することによって、われわれは社会人として本物になることができる。**

**人に喜んでもらえるということはなんなのかっていったら、それは、お客さんに喜んでもらおうということも大事なんだけど、一緒に仕事をしてる仲間にも喜んでもらえるような、そういう仕事の仕方ができる能力と人間性をつくっていこうと思わないと、社会人としては駄目だと。会社も社会、お客さんとの関係も社会だ。会社内で、その相手に感謝してもらえないような、喜んでもらえないような仕事の仕方をして、相手から文句を言われてるようじゃ、これは社会人としてはペケだという、なってないということですね。やっぱり、一緒に仕事をしてる仲間にも喜んでもらえる。そういうこの仕事の仕方というものをですね、自分がこうできるようにしていこうと思って人間は成長するわけですよね。とにかく、社会においては、仕事を通して自分を磨いていく。仕事を通して自分を鍛えていくという、そういうこの気持ちがなかったならば、社会という中で人間は本物としてですね、成長していくということはできないんですよね。社会の中で金を取れるですね、本物の人間になろうと思ったならば、仕事を通して自分を磨いていく。仕事を通して自分を鍛えていく。鍛える磨くことはなんなのかといったら、相手から本当に喜んでもらえるような、感謝してもらえるような、そういう仕事の仕方ができる能力と人間性を持った自分に成長しよう。それが自分を鍛える、自分を仕事を通して磨くということの意味ですよね。**

**そして、このお客さんにも喜んでもらえる。嫌な感じを与えない。そういうこの対応をしなきゃならんけども、だけども、一緒に仕事をしている仲間にも喜んでもらい、いい感じを与えることができるようなですね、能力と人間性というものをつくっていく努力をしないと、社会人としては未熟。まだプロとは言えんというですね、金は取れないという、そういう、この状況になるわけですね。本来ならば、そのお客さんにも、仲間にも喜んでもらえるという能力と人間性ができない間は、金は取れないというのが、本当なんだけど、現実的には、べつにお客さんに喜んでもらえるような対応ができなくっても、また、一緒に働いてる社員から、嫌なやつやなと思われとっても、とにかく一応、会社に勤めたら、給料はもらえるということになってんのが不思議なんですね、これまた。本当はその社員から嫌がられれば、その分だけ返さんないかんと。お客さんからクレームが来れば、その分、返さないかん。それが自分なりの評価というか、自分の力だけの金を取ってるということになるわけですからね。そうせんないかん。**

**だけども、そのクレームが付いても、社員から嫌がられても、全然給料減らんというか、増減なしでちゃんともらえる。これはどっかおかしいわけですね。何を基準に給料が決まっとんねやということになってきますからね。そういう矛盾をなくすために、最近は能力主義とか、歩合給とかね、いろんなそういうことを言って、その人の値打ちに応じて給料は増えたり、減ったりするというのはね、そういう感じにもなってきてますけどね。とにかくそういうこの、自分の価値に応じて金は入ってきたり、入ってこなかったりするというのが、本当のこの社会におけるプロとしての仕事のあり方ですから、だから、とにかく基本的にはですね、この人に喜んでもらえるような仕事の仕方ができる能力と、この人間性をつくっていく。もうそのためには、仕事をしないとそれはできない。仕事をしないと、どうすれば、お客さんに喜んでもらえるような能力と人間性を持った自分になれるのかということがわからないし、また、仕事をしないと、一緒に仕事をしてる仲間に喜んでもらえるような能力と人間性というのは、どうしたらできるのかがわからない。だから、われわれ、職場が必要である。仕事が必要である。それをさせてもらうことによって、自分が社会人として本物の人間になるという、そういうこの場所を与えてもらってるわけですね。**

**そして、自分が人に喜んでもらえるような仕事の仕方ができる能力と人間性を持ったとき、その値打ちに応じて金はばかすか入ってくるという、それがこの現実のですね、この仕事、職業というものの価値であります。そういうふうに思ってですね、この人の役に立つ人間になりたい。また、人に必要とされる人間になろう。そういうこの意識でですね、生きてる、仕事をしてる、努力をしてるというのが、本物の印というふうに言うことができるわけであります。さらに、社会というものの中でですね、われわれは生きておるという、この現実を踏まえてですね、そして、自分が社会人として本物になろうと思ったら、その次には何を考えなきゃならんかといったらですね、社会というものはいったい何か。社会というものは、自分と違う性格の人がおるのが社会だ。社会というのは、自分と違った人間性の人がおるのが社会だ。社会というのは、自分と違った考え方や、自分と違った感じ方や、自分と違った立場の人がおるのが社会だ。社会の中で生きていくということは、自分と違った人間性や、自分と違った性格や、自分と違った感じ方や、自分と違った考え方や立場の人と共に生きていくということが、社会というもののあり方だ。そして、社会性というのはなんなのかといったら、自分と違う考え方を持ってる人と共に仲よく生きていく力が社会性なんだ。だから、自分と違う考え方や、自分と違う性格の人と共に仲よく生きていくことができない人間は、社会性がないんだ。そのことをね、もう一度、ちゃんと社会の中で仕事をするからには考えていないといけない。**

**気の合う仲間とかですね、同じ考え方の人間としか仕事ができないという人間は、それだけの小さい、それだけの大きさしかない人間であります。だけど、社会の中で仕事を発展させ、その成果をどんどん上げていこうと思ったならばですね、自分とは違った人間性や、自分とは違った考え方や、自分とは違った宗教や、自分とは違った感じ方の人と仲よく付き合って、仲よくやっていく力をつくっていかないと、この仕事は、営業成績は上がりませんし、仕事はしづらいし、会社は発展しない。だから、社会に出れば、人脈ということがもう一番の最大の課題になるわけですね。どれだけの素晴らしい人間関係をたくさんつくれるか。それは結局、会社がどれだけ発展するかを決める、この原理なんだ。また、どれだけの営業成績が上げられるか。それは、どれだけ自分と違った性格や、自分と違った考え方や、自分と違った感じ方の人と仲よくやっていけるか。それが、営業成績がどんだけ上がるかということを決定する要因だ。結局、社会性がなかったならば、営業成績は伸びない。社会性がなかったならば、会社は発展しない。ものは売れない。それが現実であります。**

**そこでわれわれは、社会性とはなんなのかということをね、ちゃんと知りながら、仕事をしてなければ、社会人とは言えない。社会の中で仕事をしていくプロとは言えない。とにかく社会というのはなんなのかといったら、自分と違う考え方の人がおるのが社会。自分と違った考え方の人がおるのが社会。自分と違った感じ方や、自分と違った立場の人がおるのが社会。自分と違った職業の人がおるのが社会。自分と違ったこの性格の人がおるのが社会。社会性とは、自分と違った性格の人と、自分と違った考え方の人と共に仲よく生きていく力が社会性なんだ。自分と違ったこの考え方の人と共に一緒に生きていかなきゃならないから、われわれは愛が必要なんだ。なんで愛が必要なのかといったら、愛は理屈を越えた力だ。同じ考え方の人と一緒に生きていったらいいんで、考え方の合わん人とは一緒に生きていかなくってもいいんだったら、愛はいらない。理性だけで十分だ。だけども、残念ながら、人間の社会は、理性のような単純な世界ではない。人間の社会は、矛盾を内包した真実の社会だ。理性は真理の社会だ。だけど、人間の世界は、真理の世界みたいな、そんな単純な世界じゃない。人間の世界は真理の世界よりもっと複雑で高度な世界が人間の世界なんだ。**

**理性で生きていったらね、考え方が違う人と対立をしてしまう。だけど、人間はそれではやっていけない。人間は、人間が人間の社会を生きていこうと思ったならば、考え方が違う人と共に生きていく力をつくっていかないと、会社は発展しないんだ。営業は伸びない。ものは売れないんだ。だから、自分とは違った考え方や、感じ方や、立場の人を十分に理解する力を持って、相手のことをちゃんとわかって、そして、相手にちゃんとわかってもらえるように説明できて、そして、自分と違った考え方の人と共に生きていく力をつくっていかないと、社会性は本来できない。違った考え方の人と共に生きていかなければならないから、愛が必要なんだ。だから、愛は理屈を越えた力なんだ。だけども、残念ながら、今の方々は、私も含めてのことですけども、現在の人間は、同じ考え方の人間しか愛せない。同じ感じ方の人間しか愛せない。同じ立場の人間しか愛せない。同じ宗教の人間しか愛せない。そんな愛になってしまってる。それは愛ではない。それは偽物の愛だ。理性によって破壊され、理性によって侵食されて、理性の奴隷になってしまった愛だ。それは真実の愛じゃない。**

**自分と同じ考え方しか愛せない。自分と同じ考え方の人しか愛せない人間は、本来、自分しか愛せない人間だ。だけど、愛は、他者中心的な心の働きであって、愛するのは他人なんだ。他人を愛さなければ、本当の愛ではない。自分と同じ考え方の人間しか愛せない人間は、自分しか愛せない人間だ。他人を愛せない人間。それは本来の愛ではない。愛は理屈を越えてるもんだ。なんで理屈を越えた愛が人間には必要なのか。それは、考え方が違う人と共に仲よく生きていかなければならないのが社会だからだ。だから、社会には愛が必要なんだ。なんで夫婦には愛が必要なのか。同じ考え方の人間としか一緒に生きていけないんだったら、愛はいらん。理性で十分だ。だけども、夫婦といえどもですね、元は他人。違った空間で成長した。一緒に生活し始めればさまざまな違いが見えてくる。だから、愛がなかったら、理屈を越える力がなかったら、やっていけないんだ。だから、愛が必要なんだ。だのに、その理屈を越えた愛というものを忘れてしまって、愛がいかにも同じ考え方や、同じ感じ方や、同じ考え方の人を愛するのが愛だと思ってしまったりして。その夫婦が愛し合っていながらも、別れてしまうというね、そういう不幸な人生をつくってしまう。**

**それは残念ながら、人間が社会とはなんなのか。なんで社会には愛が必要なのか。その愛の本質と愛の必要性の理由を忘れてしまった。社会とはなんなのかということを人間が忘れてしまった。そこに夫婦の離婚、あるいは幼児の虐待、自分の言うことを聞かん子どもは憎い、むかつくというね、そういうお父さん、お母さんをつくってしまってる理由があるわけだ。夫婦に愛が必要なのは、自分とは違った感じ方や考え方の人と共に生きていかなきゃならんことになってくるのが夫婦だから、だから、夫婦には愛が必要なんだ。親子に愛が必要なのは、子どもというのは、親に逆らって、親とは違う考え方と欲求を持って、親よりもっと素晴らしい社会をつくっていく。そのために子どもは生まれてくるんですからね。子どもが生まれてくるのは、新しい時代をつくるためだ。親と同じ考え方をしておったんでは、新しい時代はつくれない。だから、親は自分と違った考え方を持ってる子どもをつくらなければならないんだ。だから、自分の子どもが自分と違う考え方を持ったならば、おまえ、そんなことを考えてるのか。おまえ、そんなことを考えることができるようになったのか。すごいやないかっちゅうて、自分と違う考え方を褒めてあげて、その考え方で立派に社会を生きていくことができるように協力をし、助言をし、助けてあげて、金を出してあげる。それが親の愛だ。**

**自分と同じ考え方の子どもをつくったんじゃ、これは子どもを殺してるんだ。子どもは親の奴隷になり、従順で素直な子どもとして生きていくために生まれてくるんじゃない。子どもは親を越えるために生まれてくるんだ。子どもは歴史をつくるために生まれてくるんだ。親を越えなければならない。いつまでもお父さん、お母さんや、先生や大人の言うことを聞いとったら、生まれてきた使命を果たし得ない。子どもが生まれてくるのは、新しい時代をつくるためだ。新しい時代をつくるためには、大人とは違う新しい欲求を持ち、大人とは違うもっと素晴らしい考え方や価値観をつくり出さないと、今よりもっと素晴らしい時代をつくる使命を果たし得ない。だから、子どもは逆らうんだ。だから、教育は反抗を恐れてはならない。反抗させながら、反抗する力を使いながら、親を越えた子どもを育てていく。それが教育の本義だ。だけども、残念ながら、今の大人たちは、みんな理性の奴隷になってしまって、理性というのは、みんなに共通するものをつくる能力ですからね、真理は一つだと考えるもんですから、みんな同じ考え方にならないかんと思っちゃたりして。自分の子どもが自分の言うことに逆らうのを嫌うんですよね。むかつくんですね。**

**これはもう人間じゃなくなってしまって、理性になっちゃったんだ。われわれは子どもを育てるためにも、夫婦が仲よく幸せに生きてくためにも、違った考え方を持ってる人間と共に仲よく生きていく力というものを持たなければならない。社会性がなかったら、夫婦も成り立たない。社会性がなかったならば、親子もやっていけない。社会性がないから、いじめが始まるんだ。違いが許せん。社会性がないから、戦争をするんだ。社会というものはですね、違った考え方や、違った価値観を持ってる人間、共に仲よく生きていかなきゃならないのが社会なんだということを本当にわかったらね、戦争なんてね、恥ずかしくってやってられませんよ。戦争してるということは社会を破壊してるんだ。社会性がないんです。俺は社会性がないんですということをね、言ってるようなもんだ。だから、もういっぺんですね、人類はね、原点に返って、社会とはなんのかということをね、ちゃんとこう、話し合ってもらいたい。**

**国連でもね、G7でもね、もう小学生に戻ってね、小学生というのは、みんな仲よくなんとかって言ってますからね。みんな仲よくということは、考え方が違って、感じ方が違って、立場が違っても、みんな仲よくって教わってきたんですよ。だけど、それを徹底してちゃんと社会とはなんなのかという根拠からちゃんと教えてないから、ただ表面的にみんな仲よくなんてやってるからね、だから、だんだん忘れてしまって、大人になったら、完全に忘れてしまっちゃったりして、違う考え方の人間と敵になってね、けんかして、殺し合って、夫婦は別れて、親が子どもを殺して、そんな不幸な自分になってしまうんですね。もう一度、社会とはなんなのかということをね、ちゃんとわれわれは確認し合わないと、自分が幸せになれませんよ。自分が幸せになる力を持てませんよ。自分が不幸になるだけじゃなく、他人も不幸もしますよ。対立しとったんじゃ。**

**考え方が違う、宗教が違うからって、殺し合っちゃってどうするんですかということですよね。宗教というのは、人間が幸せになるためにつくった文化だ。自分が幸せになるためにつくった文化で人を殺してね、なんで幸せなんですか。宗教は人間がつくったもんだ。人間以前からあったもんじゃない。だから、宗教は人間のためにあるんだ。なのに、その宗教のためにね、人間同士が殺し合うということは、本末転倒だ。宗教が人間以前からあったもんならね、人間はその宗教に従わなければならないということになってきますけどね、自然法則であったならば、自然法則に人間は従わないと、生きていけない。だけども、宗教も経済も政治も人間がつくったもんだ。人間が幸せになるためにつくったもんだ。なのに、政治において、政党ができて、政党が違うからってけんかをしてね、国会でつかみ合いのけんかをしたりして、何してんのっていうことですよね。考え方が違うからけんかをしとる人間は、社会を破壊してるんだ。**

**だけど、今、本当に全世界がね、この社会とはなんなのかを忘れてしまって、人類全体が社会の崩壊という危機に今、直面してるんですよ。実際問題、夫婦が離婚してね、親が子どもを殺してね、考え方や価値観や宗教や人権意識が違うから、戦争をして殺し合っとったんじゃね、これは人類滅亡しますよ。夫婦が離婚したら、子どもをつくれませんもんね。子どもができてから離婚しちゃったら、子どもが不幸になりますからね。自分の言うことを聞かんからって、いちいち子どもを殺しとったんじゃ、もうこれ、やっていけませんからね。まさにこれは社会を崩壊してるという、まさにその渦中に今、人類はあるわけですよ。だけど、そのことにすら、まだ気が付いてないんですよね。考え方が違うからって対立してるということは、社会を破壊してるんだ。社会性がないんだ。そのことに気が付いてないんですよ。自分と同じ考え方の人間しか愛せないということは、真実の愛を忘れてしまってるんだ。偽物の愛だ。みんな自分しか愛せなくなってしまってるんだ。他人を愛する力をみんななくしてしまったんだ。これは恐ろしいことですよ、本当に。他人が愛せない。自分しか愛せない。これはもうけんかする以外にないですもんね、それじゃ。**

**だけど、われわれが社会の中で仕事をし、社会の中で成功しようと思ったならば、そして、会社を発展させ、事業を展開していこうと思ったならば、自分と違った考え方や価値観や人間性を持ってる人と、本当に仲よく生きていく力をつくっていかないと、われわれは社会の中では立派に生きていくということができないんだ。その社会性を仕事を通して取り戻せばね、われわれは夫婦も離婚しないで、共に協力し合って生きていくことができる力を持つことができます。また、本当に社会性が仕事を通して育ってくればね、親が子どもを殺さなくて済むんですよ。そして、本当に社会性ができてくれば、本当に仕事を通して、その社会性が身に付けば、戦争はなくなるんですよ。仕事で金もうけをしようと思ったらね、考え方の違う人間といちいちけんかしてられませんからね。相手の考え方を聞いて、相手を理解して、そして、その人に自分の考えを受け入れてもらえるように説明する。その努力をするのが仕事ですからね、これは。そして、ようやくわれわれは、本当の人間性というものをね、培うことができて、そして、この理性の奴隷から脱却して、本当に人間らしい愛を持った、他人を愛することができる愛を持った人間に戻ることができるんですよ。**

**愛はなんで必要なのか。なんで人間、本物の人間になるために愛が必要なのか。それは、他人を愛さなければならない。自分と違う考え方を持った人間を愛さなければならない。でなかったら、人類社会は崩壊するからだ。今、自分が感じてる愛は、偽物の愛だ。間違った愛だ。それは愛ではない。理性によって侵食されてしまった、偽物の愛だ。早くそこから立ち直ってね、本当に理屈を越えた真実の愛というものをですね、われわれは自分においてですね、この表現することができる人間にならなければならない。自分が幸せになりたいんだったら、考え方が違う人を愛することができる。そういう力を自分の中につくっていかなければならない。そのために、今、社会は統合能力とパートナーシップの精神が期待されてるんですよ。どうして今ね、この社会の中で統合とか、パートナーシップということが言われるのか。それは人間を本当の人間に成長させるため、人間を本当の人間に立ち戻らさせるため、真実の愛をよみがえらせるために、今、社会は人間に統合とパートナーシップ精神を求めてるんですよ。統合とは、異なる者が力を合わせながら、シナジー効果、相乗効果をつくり出していく。そういう生き方をですね、社会は今、人間に求めてるんですよ。**

**パートナーシップというのはなんなのかといったら、自分の長所で相手の役に立って、自分の短所は相手に助けてもらって、そして、ありがとうねと感謝をする。それがパートナーシップだ。違うものを持ってるから、助け合えるんだ。同じものを持っとったら、助け合えられない。われわれは短所を持っておって、堂々と人に助けてもらうことをね、しなければならない。助けてもらわなかったら、感謝もできませんからね。助けてもらってないのに、感謝が大事だ。それは観念だ。偽物だ。助けてもらって初めて感謝ができる。それで、自分の長所で、他人から一目置かれるような素晴らしい能力の自分の長所で人の役に立つ。そして、自分の駄目なところは、堂々と相手に助けてもらって、ありがとうねと感謝をする。それが人間だ。それが社会だ。いちいち相手の欠点を責めたらいかん。相手の足らんところは、自分が補ってあげることが愛だ。そして、自分の足らんところを相手から助けてもらうことが愛だ。感謝する気持ちも愛ですからね、これは。対立しないから感謝ができるんですから。そういう真実の愛を、本当の社会性をわれわれは今、取り戻さないとね、仕事も発展しない、会社も発展しない。自分も幸福にはなれない。**

**人間として、本当に本物というね、そういう力を持とうと思ったら、第３番目には、この愛の精神をわれわれは成長させていかなければなりません。本当の社会性というものをわれわれは持つことを志さないとね、人間、本物には戻れません。本物にはなれません。人の役に立とうとすることが愛だ。人に必要とされる人間になろうとすることが愛だ。人に喜んでもらえるような仕事の仕方ができる能力と人間をつくっていこうということが愛だ。社会の基本は愛なんだ。もう一度ですね、そういうこの社会の中で、社会人としてですね、生きていくために、何が一番大事なのかということを、ぜひ確認してもらいたいんですよね。それができて、ようやくですね、われわれは本物の人間という、そういうこの価値を持ち始めるわけですね。本当に自分と違う考え方の人間と仲よく生きていけるという価値をね、自分が、そういう愛を、自分がちゃんとこう、持つことができるためには、いったい何が必要なのかといったらですね、それは考え方が違うということは、相手が何かしら、自分にない体験や、経験や、学習内容や、何か自分にないものを持ってるんだ。自分にないものを持ってると対立をする。同じものを持っとったら、対立しませんからね。自分にないものを持ってると対立するんだ。**

**だけども、人間が成長するためには、自分と同じようなものを持ってる人間と長く付き合っても、人間は成長しない。人間が成長しようと思ったら、自分にないものを持ってる人間と付き合って、自分にないものを学び取ろうとする努力をするから、人間は成長するんだ。そのことを考えて、積極的にですね、自分と違う考え方の人、自分と違う感じ方の人、自分と違う人間性の人、自分と違う立場の人と出会ったならば、何か自分が相手から教えてもらって、学び取って、そして、この自分を成長させようというね、そういうこの気持ちにならなければならない。それが愛だ。相手から学ぼうとすることが愛だ。愛するとは学ぶことだ。相手から学ぼうとしないことは、愛がないんだ。相手から学ぼうとすることが、愛なんだ。だから、夫婦関係においてもですね、この本当にその人の妻になろうと思ったら、その男から、その男を学んであげなければ、その男の妻ではない。その女の夫になろうと思ったなら、その女から、その女を学んであげなければ、その女の夫にはなれない。その子の親になろうと思ったら、その子から、その子を勉強してあげなければ、その子の親ではないんだ。**

**みんな本で勉強したりして、本で勉強して、自分の子どもがその本より進んでる、遅れてるというようなことをね、言ってるんですよね。それは自分の子どもを外から見てるんだ。自分の子どもとの命の一体感がない。だから、子どもはいつもお父さんから、お母さんから批判されてる。外から見られてる。何かしようとしたら、いつもいかんとか、否定的なことを言ったり、批判したり、注意したりされる。だから、全然、愛を、命は感じないんですね。頭で考えたら、愛されてるということがわかるんだけど、命が愛を感じてない。命における愛とは一体感ですからね。そういうこの理屈を越えたですね、命の一体感というものを全然、子どもは感じてない。いつも批判されてる、注意される、叱られる。全然、その命が愛を感じない。**

**一体になろうと思ったら、子どもから学ばないと、一体になれない。相手から学ばないと、一体になれない。お客さんのことを勉強しないと、そのお客さんのことを本当に知ろうと思わないと、お客さんと心を通わせて、一体になって、愛という、そういうこの愛の表現としての仕事ということをすることはできない。仕事というのは、相手の役に立つことをして仕事、相手のために何かをすることが仕事なんですからね。だから、相手の要求をわからなかったら、仕事は成り立たない。だから、あらゆる職業は愛の実践だ。すべての職業は愛の実践だ。自分のために何かをするんじゃなくて、人のために何かをするのが諸行ですからね。だから、すべての諸行は愛の実践だ。愛の実践とはなんなのか。それは相手から学ぶことだ。お客さんから学び、同僚から学び、相手のことを本当に知ろうとして、相手から学ぼうとする気持ちがまさに愛の実践だ。愛するとは学ぶことだ。相手から学ぼうとしないということは、相手に対して愛を示してないことになってしまう。**

**そして、愛するとは努力だ。愛は努力だ。相手を愛しておるかどうかは、相手のために、どれほどの自己犠牲的な努力ができるかということが、愛があるかないかを証明する基準だ。相手のために自己犠牲的な努力ができないということは、愛はないんだ。相手のために自己犠牲的な努力ができるということが、愛があるということだ。お父さん、お母さんが、自分の子どもを愛するということはなんなのか。それはお父さん、お母さんが、どれほど自分の子どものために自己犠牲的な努力を払ったか。その自己犠牲的な努力の量と質が、親の愛の重みを決定する。親が子どもを愛するということは、お父さん、お母さんが自分の子どものためにどれだけの自己犠牲的な努力を払ったかということなんだ。愛は努力なんだ。相手を理解しようとする努力、相手をわかろうとする努力、それが愛だ。実際、それができたら、商売は無限に発展する。ものはどんどん売れる。相手のことを本当にわかったら、相手が欲しいと思うものがわかるんですから、売れないはずがない。本当のお客さんの心がわからんから、売れない。どういうふうに言ったら売れるか、わからないんですよね。相手がわからんのだから、売れるはずがない。何を求めてるのかがわからないから、相手が求めておるものにヒットしない。説明をする力ができてこない。相手が求めてないことをどんだけ説明したって、相手は聞く耳を持たないんですから、そんなことを聞いとるんやないわとなりますからね。とにかくすべての職業は、愛の実践だ。仕事はその、人のために何かをして、金をもらうというのが仕事ですからね。**

**人のために何かしようと思ったら、相手のことを理解することをまず優先する。愛というのは、他者中心的な心の働きである。他者を愛せない愛は、愛ではない。自分と同じ感じ方しか、自分と同じ感じ方の人しか愛せない。そんな愛は愛じゃない。それは理性によって、この破壊された偽物の愛だ。愛は理屈を越えてなければならない。理屈を越えるとは、考え方が違う人と共に生きていくということが理屈を越えることなんだ。違う人間性の人と一緒に生きていくということは、理屈を越えることなんだ。本当の愛があったらですね、恋愛中でもどういう行動を取るかといったらね、寒い冬に彼女が海に行きたいなんていうようなことを言って、車に乗せて、海岸に行っちゃったりして、海岸でデートをしててですね、やってる間に、その彼女がね、本当に私のことが好きだったら、この海に飛び込んでごらんって言われてね、こんな寒いときに海に飛び込めなんてなことを言うような女とは付き合えるかといって別れてしまっちゃったら、それまでなんですけどね。それは理屈なの。**

**本当に愛があったら、飛び込んだろうやないかって、飛び込んじゃって、初めてその愛は証明されるんですよ。そんなに私のこと好きやったのって。結婚できるわけですね。そんなばかなことを言う女はもう付き合えんといって言ったら、それは理性でね、理屈だから、そこには本当の愛はないんだ。よく女はそういう理屈に合わんことを言って、男の心を確かめるんですよ。男はよっぽど用心しとらんとね、その網に引っ掛かったりして、ついうっかり、せっかく結婚できるところを逃してしまったりしてね。女は本能的にそういう男の愛を確かめる能力を持ってるんですよ。だから、非常に理屈の合わんことを言って、無理を言うんですよ。その無理が、そんなこと無理やって言ったら、それは理屈になって、愛じゃないんですね。愛は理屈を越えなければならない。理屈を越えなければ愛じゃないんだ。その理屈を越えたことを、理屈では無理なことを言ったことを聞いてあげたときに、愛がじわっと命に染み込んで、愛されてるということを女は感じてくれる。理屈では愛せない。理屈では本当の愛は証明できない。**

**理屈を越える力が、人間にはですね、いろんな意味で必要なんですよ。人間はイコール理性ではない。人間は理性と感性と肉体という、３つの要素から成り立ってるんだ。だから、人間は理性よりもっと素晴らしい存在だ。人間は理性を越えてる存在なんだ。人間は理性より素晴らしい存在なんだ。だから、人間は理屈で生きては、人間ではない。理屈を越えなければ、人間じゃないんだ。理性よりも、人間のほうがもっと複雑で高次元の存在なんだ。理性のような単純な存在じゃない。理性の世界は真理の世界だ。だけど、人間の世界は矛盾を内包した真実の世界だ。真実は真理よりも高次元の世界だ。真実は真理よりも素晴らしいんだ。人間の住んでる社会は、真実の社会だ。真理のような単純な社会じゃない。真理で考えたならばね、長所はいいけど、短所はいかん。短所はなくせというのが真理なんですよ。だけど、人間は、短所はなくならない。だから、理屈を越えなければ、人間にはなれないんだ。人間は長所も生かし、短所も生かさなければ、人間ではない。理性で考えて駄目だと思うところも大事なところなんだ。それを捨ててしまっては、人間じゃなくなってしまう。短所がないのは、人間じゃないんですから、だいたいが。短所があってこそ人間なんだ。短所を生かせなければ、人間にはなれないんだ。短所を生かせなければ、人間らしい謙虚な心はできないんだ。**

**長所ばっかじゃ、神様だ。だけど、理性はそういう間違いを犯すんですよ。理性は人間を殺すんですよ。理性は人間を破壊するんですよ。理性で考えたならばね、表はいいけど、裏はいかんちゅうんですよ。表はいいけど、裏はいかんなんていったら、紙どうありゃいいんですかね、これ。表だけの紙、出せといったって、そんなものはね、表があったら、裏があって、紙がなんですからね。神様はどうありゃいいのって、困っちゃいますからね。そういうこの真実の社会を破壊するようなことを言うのは理性だ。光があったら、影があるんだ。影のない光なんていうのは存在しない。右があったら、左がある。上があったら、下がある。善があったら悪があって、悪がなくなってしまったら、何が善かがわからんことになってしまう。悪があるから、人間は善を求めてるんだ。悪がなくなってしまったら、善を求めない。価値の世界は消えてしまうんだ。悪があるから、善を求め続ける。醜があるから、美を求め続ける。偽があるから、真を求め続ける。それが人間の社会だ。善も悪も生かし、美も醜も生かし、真も偽も生かし、裏も表も生かし、長所も短所も生かす。それが真実の矛盾を内包した人間の社会のあり方なんだ。**

**だから、人間の社会は単純なもんじゃない。理性みたいな単純なもんじゃない。単純ばかじゃない。人間はもっと高度な、複雑な社会に住んでるんだ。だから、理性では生きられないんだ。だから、理屈を越えた愛が必要なんだ。理屈を越えるためには愛がなければならないんだ。とにかく、相手から学ぼうとするね、そういうこの謙虚な心をですね、もうわれわれは持たなければ、愛せません。これからは、人類はですね、違うから対立をするという、そういう時代からね、違うんだから、学び合える。違うんだから、教え合える。違うんだから、協力できる。違うんだから、助け合えるという、そういう時代をつくっていかなければならないんですよ。いつまでも違いを理由に対立をしておるようではね、より素晴らしい時代はつくれません。本当にわれわれが、この夫婦が共に理解し合って、助け合って生きていく、幸せなこの時代をつくり、本当にこの親がですね、子どもの反抗を許しながら、その反抗をさせながら、子どもを育てていくという、真の教育ができるようになり、そして、その考え方が違っても、権利意識が違っても、戦争をしない、宗教が違っても戦争をしない。そういう本当に素晴らしい人間社会をつくっていこうと思ったならば、われわれは理性の奴隷から脱却して、真実の愛を求めていく以外にですね、人類は、今よりもっと幸せになる道はありません。**

**それが同時に、仕事において成功する原理でもある。社会に出たらですね、人脈が大事だ。本当に人脈という素晴らしい人間関係をたくさんつくっていく力をね、われわれ、持とうと思ったならば、本当に社会人として本物の人間になろうと思ったなら、社会において一番大事なのは、理屈を越える力だ。理性ではない。愛だ。仕事においても、愛が一番必要なんだ。だけども、素晴らしい能力がなかったら、人のために尽くすこともできませんからね。だから、愛以前に、まずは自分が俺はこれで生きていくんだというね、他人から一目置かれる能力をまずつくる努力を、まずはしなければならない。だけども、社会に出たら、愛が必要なんだ。愛がなかったならば、社会を破壊してしまう人間になってしまう。愛がなかったならば、自分の能力を生かせない。夫婦においても、親子においても、会社においても、社会に出たら、とにかく愛が大事だ。理屈を越える力、自分と違った考え方を持ってる人間と共に仲よく生きていく力を持つことなしには、人間は人間としての本物の生き方というものをね、獲得することはできません。**

**その意味で、自分が人間として本物になろうと思ったならばね、もう一度、この愛の問題を考えてみてもらいたい。同じ考え方や同じ感じ方の人間しか愛せないような人間は、人間ではない。社会性がない。同じ考え方の人間しか愛せない人間は、自分しか愛せない人間だ。他人を愛する力がないということを証明してるんだ。人間は他人を愛さなければ、真実の愛を持ったとは言えない。男が女を愛するということは、他人を愛することなんだ。女が男を愛するということは、他人を愛することなんだ。自分とは違うものを愛することなんだ。それが愛の本当の姿だ。それが愛の真実なんだ。だけど、自分しか愛せないということになってしまったら、原理から言ったら、男は男しか愛せない。女は女しか愛せない。そんな気持ちの悪い愛ではね、愛ではない。他者を愛することによって、初めて社会は成り立つんだ。男が女を愛し、女が男を愛して、初めて子孫は生まれてきて、人類は永続するんだ。そのために愛はあるんだ。愛は他者を愛するためにあるんだ。自分しか愛せないような愛は、偽物の愛だ。それは愛ではない。そのことをね、ぜひ、この仕事を素晴らしいものにしていくためにもですね、ぜひ、この十分にですね、理解をしておいてもらいたいと思います。**

**とにかく、この人間として本物になるというね、そういう道を歩んでいく最後の決め手は愛にある。本当に人に喜んでもらえるような仕事の仕方ができる能力と人間性をつくっていこうということは、愛の実践なんだ。諸行は愛の実践なんだ。本当に人の役に立つ人間になろうとすることが愛だ。本当に人に必要とされる人間になろうとすることは、愛の努力だ。そして、お客さんにも、同僚にもですね、一緒に仕事をした仲間にも、喜んでもらえるような仕事の仕方ができる能力と人間性というものを、この仕事をしながら、職場を通して自分がつくっていこう。それが愛なんだ。それが愛するということなんだ。愛は努力だ。相手のために自己犠牲的な努力ができるということが愛なんだ。相手のために自己犠牲的な努力ができないということは、愛がないんだ。自分しか愛せないような人間なんだ。それは偽物の愛だ。偽物の愛は、偽物の愛だから、自分を不幸にする。せっかく結婚しても、別れなければならなくなってくる。せっかく子どもをつくっても、子どもを殺さなければならなくなってくる。偽物の愛なら、当然そうなるんだ。同じものしか愛せないんですからね。本当にわれわれが、自分が幸せになりたいと思うならば、本物の愛を求めていかなければならない。他者を愛することができる愛を求めていかなければならない。**

**命は本来、他者を愛することができる愛を持ってるんだ。だのに、理性によって、われわれは、その愛を破壊されてしまった。もう一度、本当の命から湧いてくる本物の愛を、われわれは取り戻さなければならない。男は女を愛するようにできてるんだ。女は男を愛するようにできてるんだ。そのことによって初めて子孫は続いていく。永遠の命は保たれる。それが命の欲求なんだ。だからこそ、われわれは社会においても、他人を愛する力をつくっていかなければならない。自分と違った考え方を持ってる人間と共に生きていく力をつくっていかなければならない。違った宗教を持ってる人間と共に生きていく力をつくっていかなければならない。それがないということは、人間ではないんだ。理性だ。社会性がないんだ。本当の愛がなかったら、社会は崩壊する。今まさにそういう状態になってるんだ。本当に仕事において成長するためにも、われわれは本当に社会性を持った、真実の愛を持った人間に自分がなることをですね、目標にしなければならない。自分が幸せになるためにも、仕事において成功するためにも、これは最も大事な原理だ。**

**とにかく人間が本物の人間というですね、そういう条件を今のこの時代において満たそうと思ったならば、われわれが求めていかなければならないのは３つある。それはなんなのかといったら、この傲慢であってはならないというね、そういうこの不完全性の自覚から出てくる、傲慢であってはならないという、そういうこの人間性。だから、人間としてもっともっと成長したいという成長意欲。それから、他者を愛することができる愛。すなわち、他人のために役に立つことができる人間、そういう他者を愛することができる人間。そういうものをね、自分が、自分の中に確立しなければ、この大宇宙の力によってつくり出された人間にふさわしい人間性を持った人間、本物の人間とは言えない。理性によってつくられた、作為的に曲げられた、そういうこの間違った人間の姿を人間と思ってはならない。**

**人間は大宇宙の摂理によってつくられた人間なんだ。大宇宙の摂理とはなんなのか。大宇宙の意志に沿った生き方はなんなのか。それが矛盾を生かすということだ。大宇宙は、マイナスエネルギーとプラスエネルギーとのエネルギーバランスによって宇宙の秩序を形成してる。人間も長所も短所も生かさなければならない。違った考え方を持ってる人間が共に生きていくということが宇宙の姿なんだ。マイナス、プラスが、共に協力し合いながら、秩序をつくってる。社会においては、違った考え方を持ってる人間は、共に協力しながら、社会の秩序をつくる。それはまさに宇宙の姿だ。本当にわれわれが、宇宙、母なる宇宙によってつくられた個なる命というね、そういう生き方をしようと思ったならば、われわれは愛を持たなければならない。真実の愛を思い出さなければならない。ぜひそれを考えながらね、この仕事を通して自分を磨いていって、立派な人間に成長していく。そういうこのことをですね、考えてみてもらいたいと思います。どうもありがとうございました。**